使い方の手びき

《取扱説明書》

MY LOCK 260D

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

図記号	意味
⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

⚠警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行
一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。

必ずプラグを持って抜く
以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。
- ミシンのそばを離れるとき
- ミシンを使用したあと
- ミシン使用中に停電したとき

⚠注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止
お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止
ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

禁止
縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁止
曲がった針はご使用にならないでください。

禁止
付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。
このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。

禁止
電源コードの上に、物をのせないでください。

必ず実行
針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行
ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

必ず実行
お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。

必ずプラグを持って抜く
以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
- 針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき
- 上糸・下糸をセットするとき
- ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。)
- ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを持って抜く
ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
- 正常に作動しないとき
- 水に濡れたとき
- 落下などにより破損したとき
- 異常な臭い・音がするとき
- 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

目次

● おとり扱いについてのお願い

★より安全のために…

①ミシンを動かしているとき、針から目をはなさないように注意し、はずみ車、メス、針などに手を触れないでください。

②つぎのようなときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

■ 使用後

■ ミシンのそばを離れるとき

■ 部品をつけたり、はずしたりするとき

■ ミシンの手入れをするとき

③コントローラーの上には物を乗せないでください。

④たこ足配線は、危険ですからやめましょう。

★ご使用の前に…

①ほこりや油などで布を汚さないように、使う前にミシンをよくふいてください。

②ミシンのセットや、針板、針を交換するときには、この《使い方の手びき》を見て、正しく、確実にセットしてください。

③ミシンをセットしたら、ルーパーカバーと布板が確実にしめてあることを確認し、実際に縫うものと同じ布や糸でためし縫いをしてみましょう。

★いつまでもご愛用いただくために…

①ほこりや油などの汚れは、水をつけずに、乾いたやわらかい布でふきとります。
＊シンナー、ベンジン、みがき粉は絶対に使用しないでください。

②長時間日光にあてたり、ストーブのそばに置いたりしないでください。

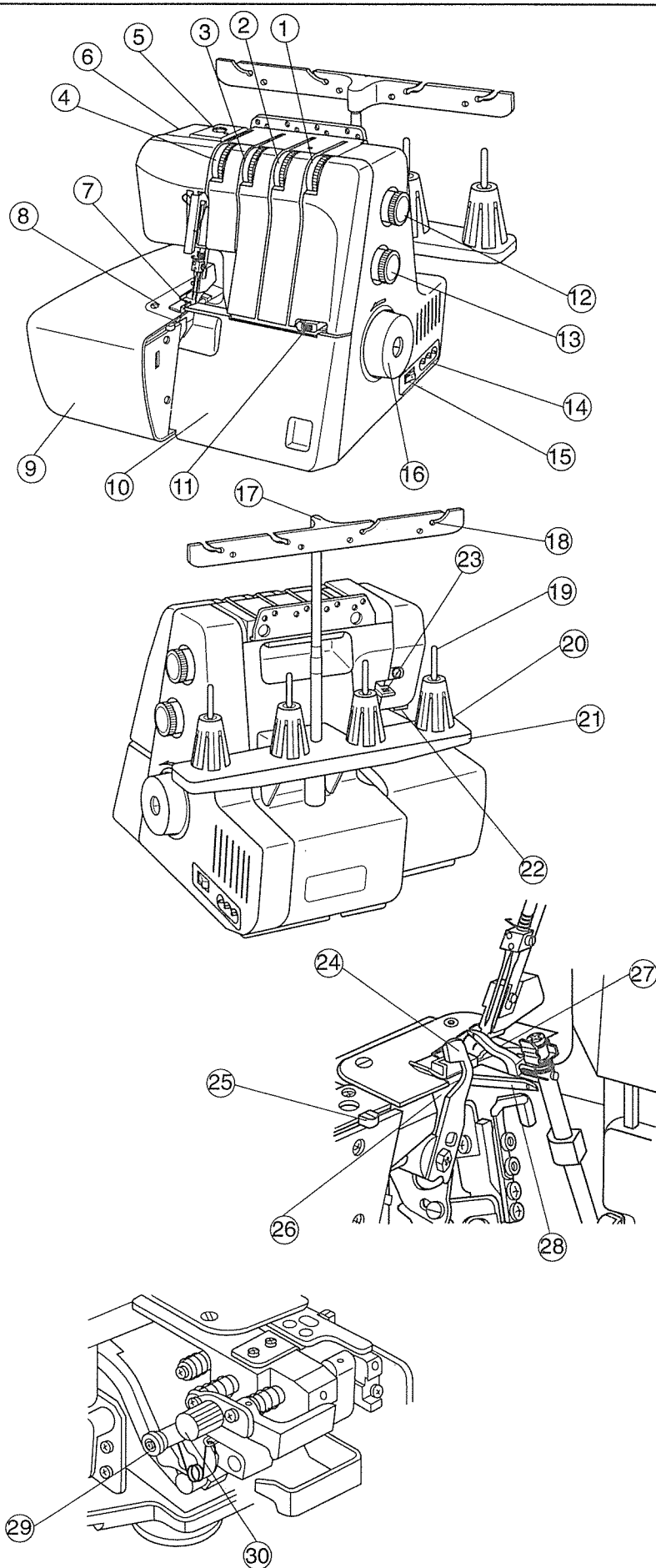
③湿気の多いところはさけてください。

④落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

● 修理、調整についてのご案内

万一不調になったり、故障を生じたときは、「調子がよくないときの直し方」(46ページ)により点検・調整を行なってください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● このミシンは、日本国内用に作られていますので、外国では使用できません。
(This sewing machine can not be used in foreign country as designed for Japan only.)
仕様及び外観は改良のために予告なく変更することがありますのでご了承下さい。

● 各部の名まえ

①下ルーパー糸調子器

②上ルーパー糸調子器

③針糸調子器(右)

④針糸調子器(左)

⑤押さえ圧調節ねじ

⑥面板

⑦押さえ

⑧針板

⑨布板

⑩ルーパーカバー

⑪補助糸調子スライドつまみ

⑫縫い目のあらさダイヤル

⑬縫い目の伸縮ダイヤル

⑭プラグ受け

⑮電源スイッチ

⑯はずみ車

⑰糸掛けスタンド

⑱糸掛け

⑲糸立て棒

⑳糸こまホルダー

㉑糸立て台

㉒糸切り

㉓押さえ上げ

㉔上メス

㉕かがり爪つまみ

㉖下メス

㉗上ルーパー

㉘下ルーパー

㉙上メスつまみ

㉚切り幅調節ダイヤル

● ダストボックス

ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。

①切り欠き部
②ルーパーカバー
③ダストボックス
④突起部

● 物入れケース

ミシンをお使いにならない時、物入れケースはダストボックスに収納できます。

①ダストボックス
②物入れケース

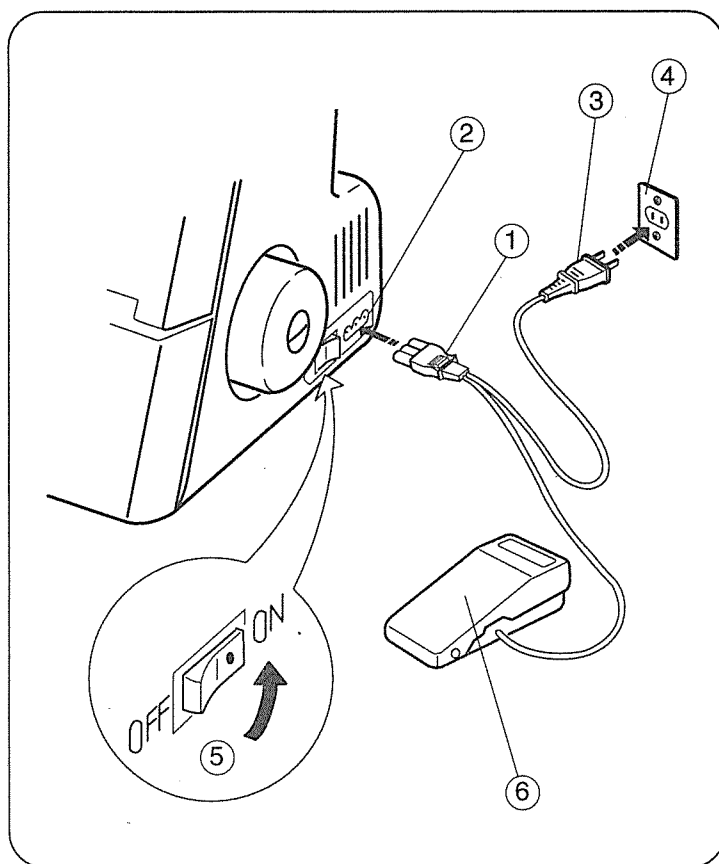
● 標準付属品

①ドライバー(大)
②ドライバー(小)
③ピンセット
④針ケース
　HA×1SP11番、14番
⑤糸こまネット
⑥糸こま押さえ
⑦ブラシ
⑧糸通し器
⑨油さし
⑩スプレッダー

● 糸通し器の収納

付属の糸通し器は、ルーパーカバーの内側に用意した保持部に収納できます。
糸通し器を使ったあとは、ここに収納しておけば、次に使う時にすぐにとりだすことができて便利です。
糸通し器のくぼみを保持部の切り欠きに合わせて収納します。

①ルーパーカバー
②保持部
③切り欠き
④糸通し器

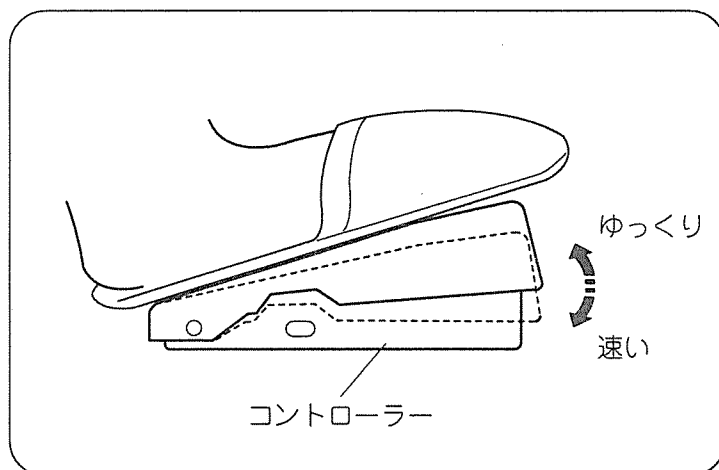
●電源のつなぎ方

1.電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
2.電源プラグをコンセントにさしこみます。
3.スイッチを「ON」にします。

 ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

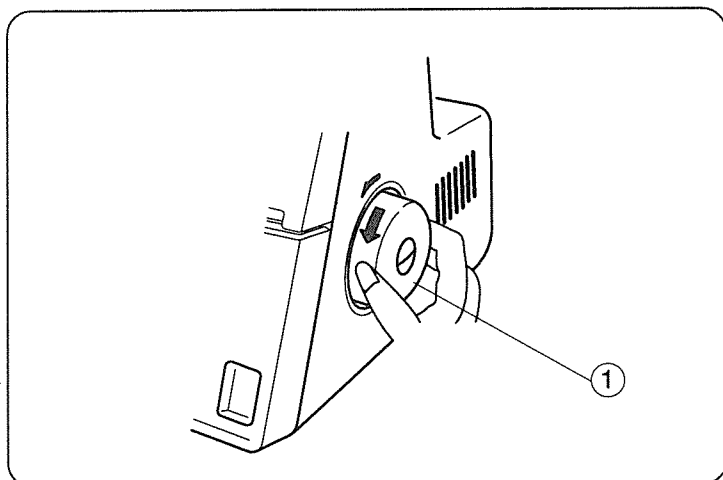
 電源プラグやコンセントから抜く時は、コードを引っ張らないでください。

 一般家庭用交流電源（100V 50/60Hz）でご使用ください。

①プラグ
②プラグ受け
③電源プラグ
④コンセント
⑤電源スイッチ
⑥コントローラー

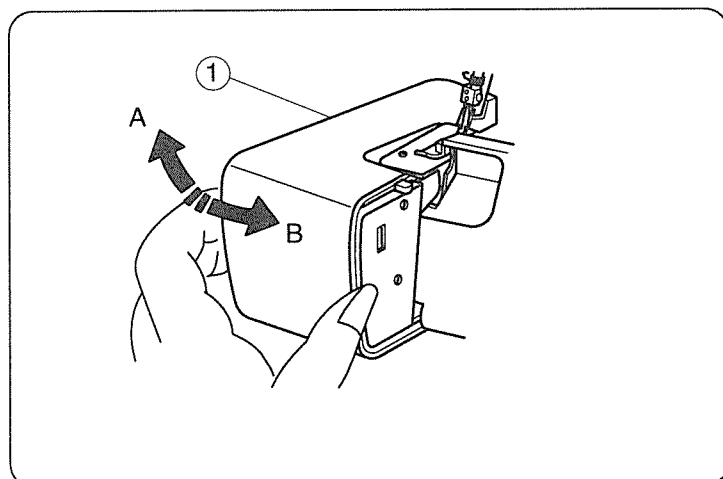
●速さの調節のし方

ミシンの速さは、コントローラーで調節します。
※コントローラーは、深く踏み込むと速くなります。

⚠ コントローラーの上に、物を置かないでください。

●はずみ車の回転方向

⚠電源スイッチを切ってください。

＊はずみ車は、手前にまわします。

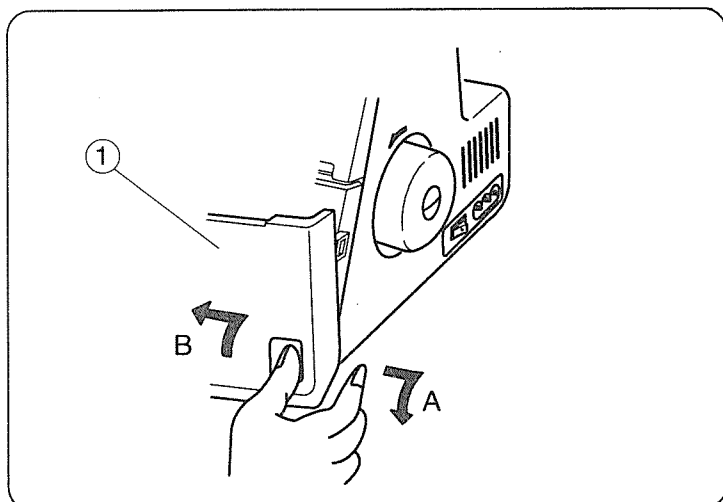
①はずみ車

●布板のあけ方、しめ方

⚠電源スイッチを切ってください。

◆あけ方
左へ押してあけます。(A方向)

◆しめ方
右へ押してしめます。(B方向)

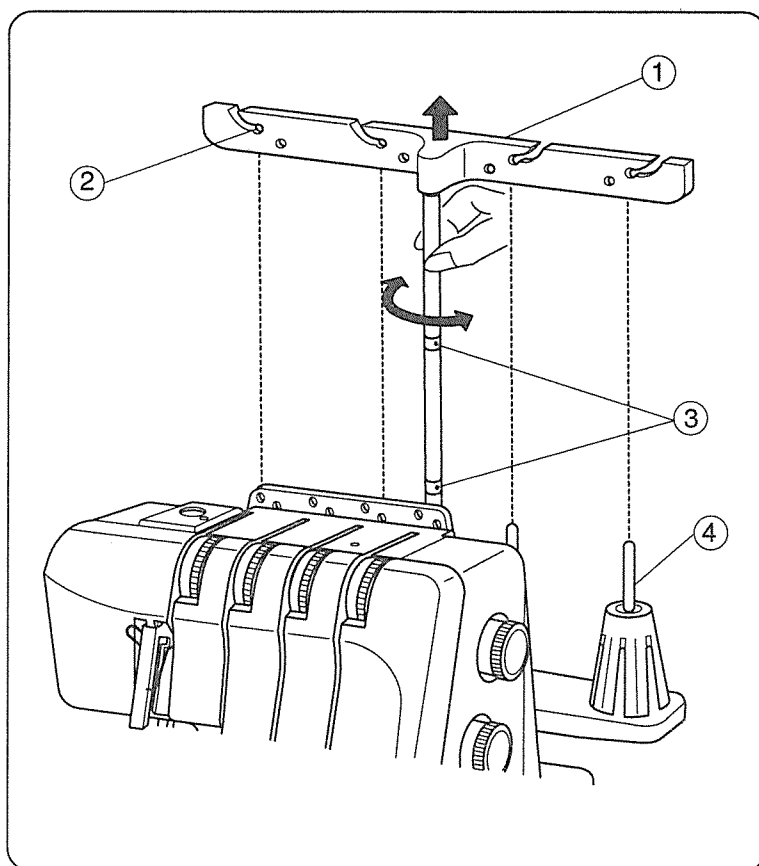
①布板

●ルーパーカバーのあけ方、しめ方

⚠電源スイッチを切ってください。

◆あけ方
右いっぱいに寄せながら、手前にひきます。(A)

◆しめ方
もちあげて軽く押しつけます。(B)

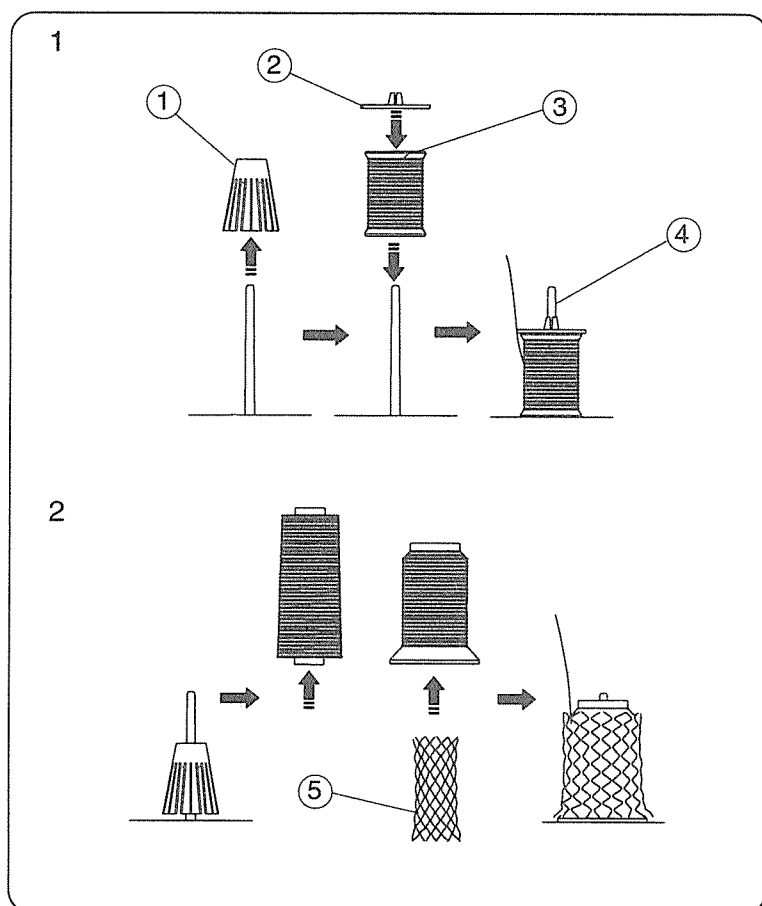
①ルーパーカバー

●糸掛けスタンドの位置決め

1.糸掛けスタンドをいっぱいに伸ばします。

2.糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置をきめます。

＊ストッパーは図のように2ヶ所ありますので、必ず2ヶ所ともきちんと位置を決めます。

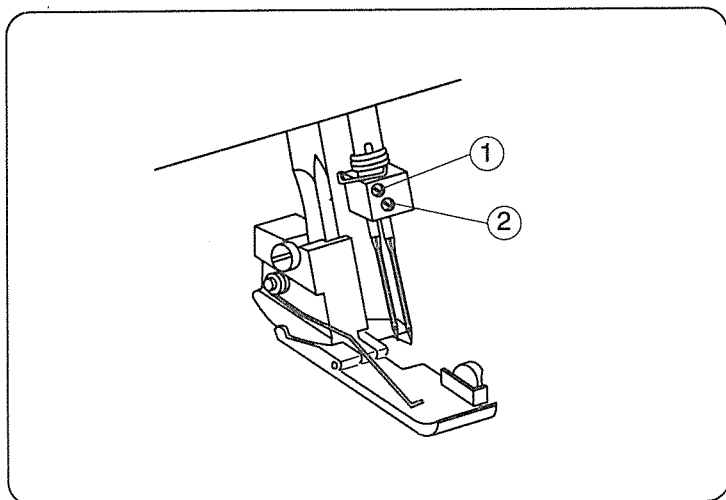
①糸掛けスタンド
②糸掛け
③ストッパー
④糸立て棒

●糸こま押さえ、糸こまネットのつけ方

このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。

1.こま巻き糸は、糸こまホルダーをはずして切り欠きのあるほうを上にして、糸こま押さえをはめてください。

2.チーズ巻き糸は糸こまホルダーを使います。特に化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは付属の糸こまネットを下の方からかぶせてご使用ください。

①糸こまホルダー
②糸こま押さえ
③切り欠き
④糸立て棒
⑤糸こまネット

●針のとりかえ方

＊針はHA×1SPの14番または11番をお使いください。

⚠電源スイッチを切ってください。

1. 針を上げ、とりかえようとしている針の針止めねじをゆるめて、針をはずします。

①左側の針止めねじ
②右側の針止めねじ

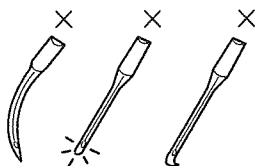
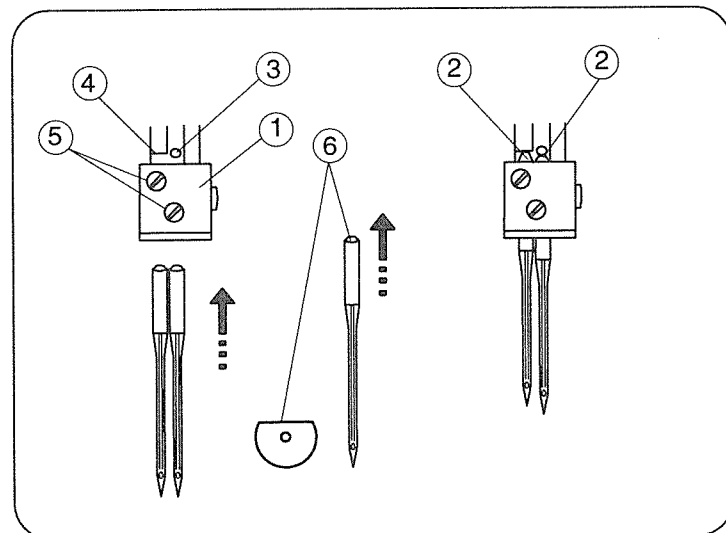
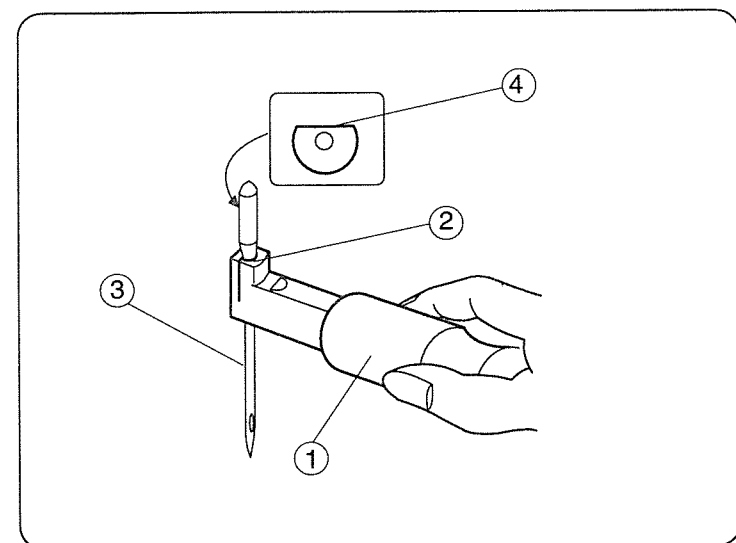
2.右側の針をつけるとき
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、針棒のピンにあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたくしめます。

3. 左側の針をつけるとき
針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、針棒の切り込みにあたるまでさしこみ、左側の針止めねじをかたくしめます。

＊片方の針のみ使用するとき、使わない方の針止めねじは、はずれない様にかるくしめておきます。

＊針が正しくとりつけられていると、左図のように左側の針は、右側の針よりも少し上に上がった位置にあります。

①針止め　④針棒の切り込み部
②針　⑤針止めねじ
③ピン　⑥平らな面を向こう側にする

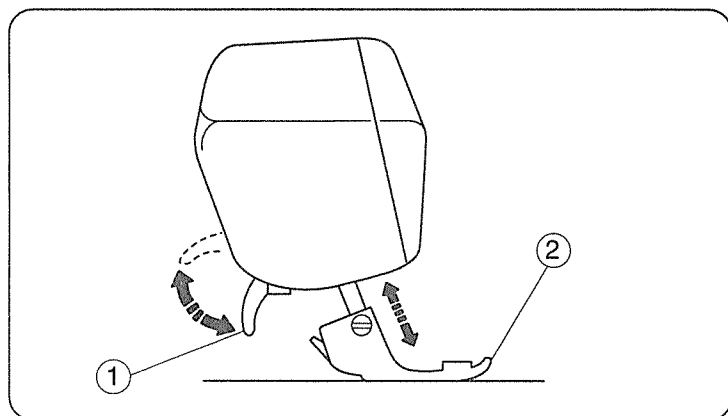
⚠全体にまがった針や、針先のまがったりつぶれた針は、使用しないでください。

●糸通し器の針保持部の使い方

針をとりつけるときには、付属の糸通し器の針保持部を利用すれば、かんたんにとりつけることができます。

⚠電源スイッチを切ってください。

1.針の平らな面を向こう側にして、糸通し器の針保持部の穴に針を差し込みます。

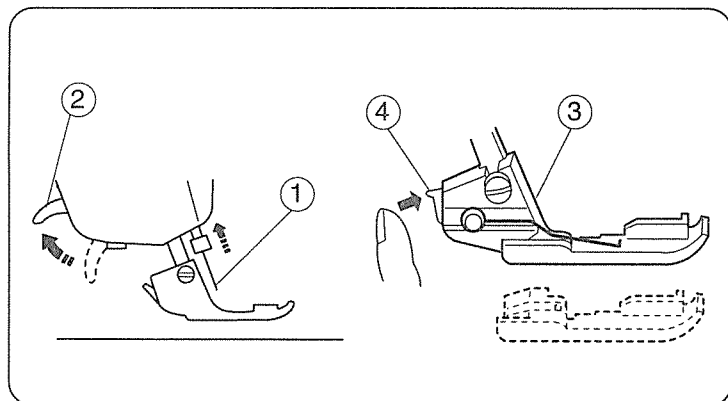
2.そのままホルダーを持ってミシンの針止めに差し込み、針を固定します。

①糸通し器のホルダー　③針
②針保持部　④平らな面

●押さえのあげ方、さげ方

押さえをあげさげするときは、押さえ上げを上下に動かします。

＊一般的に、糸を通しなおすとき以外は、押さえをさげたままにして使用します。

①押さえ上げ
②押さえ

●押さえのはずし方、つけ方

◆はずし方

⚠電源スイッチを切ってください。

①針をあげ、押さえをあげます。

②押さえホルダーのレバーを押して、押さえをはずします。

①針　③押さえホルダー
②押さえ上げ　④レバー

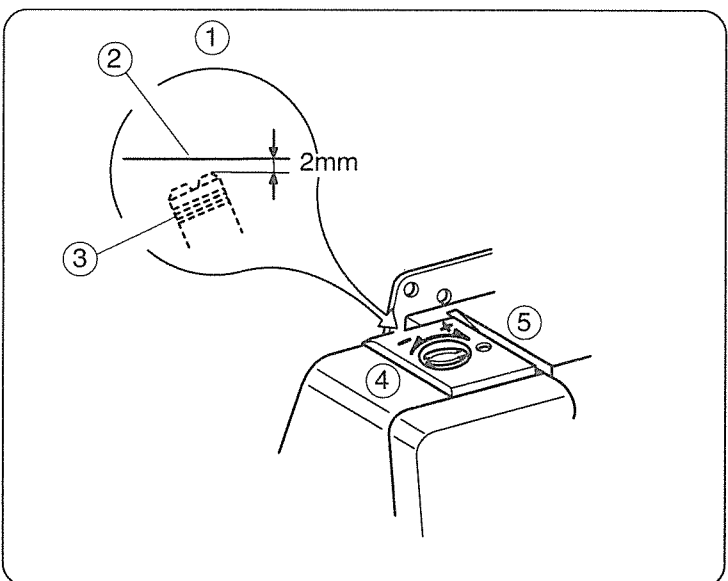
◆つけ方

⚠電源スイッチを切ってください。

押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げを下げれば自動的にセットされます。

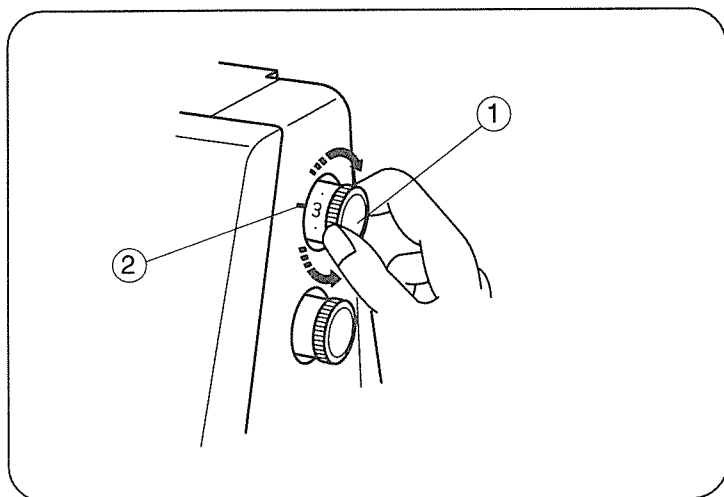
＊押さえ上げをあげ、押さえが確実についていることを確認してください。

①押さえホルダー　②みぞ　③ピン

●押さえ圧の調節

＊このミシンは、通常、押さえ圧を調節する必要はありませんが、極薄もの、極厚もののとき押さえ圧調節ねじで調節してください。
・極薄もののときは、圧力を弱くします。
・極厚もののときは、圧力を強くします。

＊縫い終わったら、押さえ圧調節ねじは標準位置にもどしておいてください。
押さえ圧調節ねじの標準位置は、ミシンの上面からおよそ2mm位低い位置です。

①標準位置
②ミシンの上面
③押さえ圧調節ねじ
④圧力が弱くなる
⑤圧力が強くなる

●縫い目のあらさの調節

縫い目のあらさの調節で、縫いの種類に応じた縫い目のあらさを選ぶことができます。縫い目のあらさダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

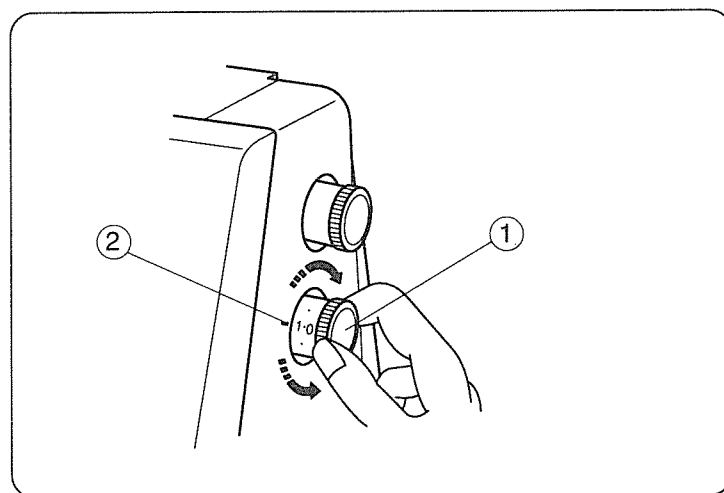
＊厚い布はあら目に、薄い布はこまか目に調節します。

＊縫い目のあらさは、最小1mmから最大5mmまで調節できます。

＊目盛「R」は、巻き縫い又は細ロック縫いをするときの縫い目のあらさで、約1.5mmです。

＊ダイヤルをまわしてクリック感の大きい位置が標準の約3mmの位置です。

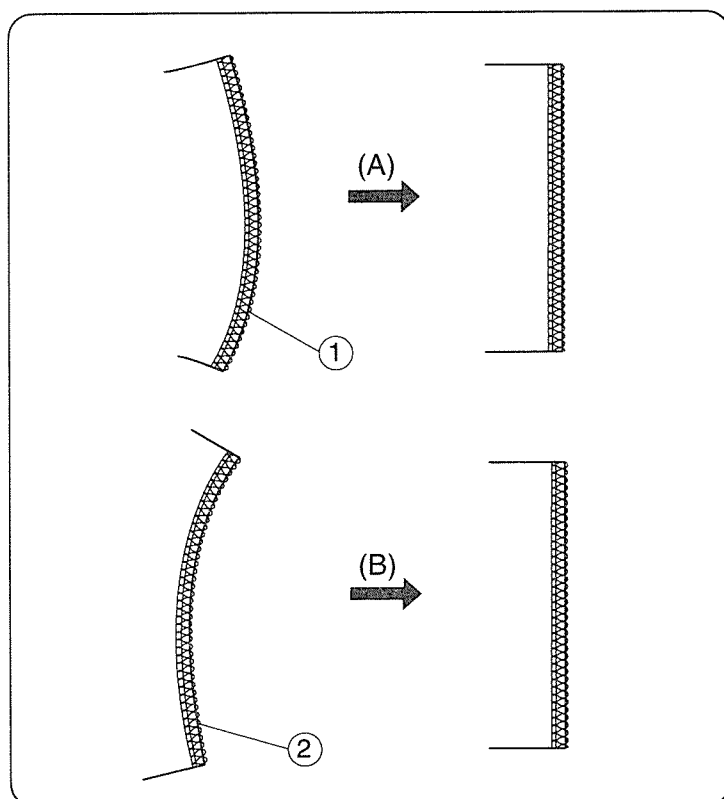
① 縫い目のあらさダイヤル
② 指示線

●縫い目の伸縮の調節

布の縫い伸び、縫い縮みを直すときに使用します。

＊縫い目の伸縮目盛「1.0」は伸縮比1.0を表し、縫い目の伸縮のかかっていない状態です。（伸縮比は差動比とも呼ばれます。）

＊目盛が1.0より大きいと布を縮ませながら縫う状態になり、1.0より小さいと布を伸ばしながら縫う状態になります。

＊ダイヤルをまわしてクリック感の大きい位置が標準の1.0の位置です。

① 縫い目の伸縮ダイヤル
② 指示線

◆ 布地が伸びてしまうときの直し方(A)

縫い目の伸縮ダイヤルを手前側へまわし「2.2」の方へ大きくするに従い、縫い伸び防止の効果が高まります。

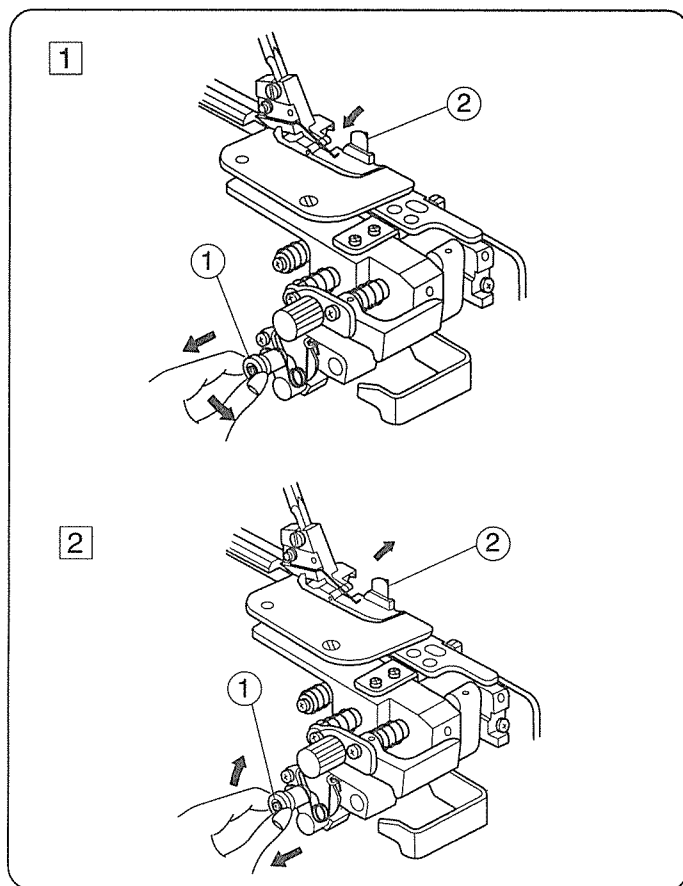
◆ 布地が縮んでしまうときの直し方(B)

縫い目の伸縮ダイヤルを向こう側へまわし「0.5」の方へ小さくするに従い、縫い縮み防止の効果が高まります。

＊縫いの安定のために、縫い目のあらさダイヤルを4mmより大きくすると最大伸縮比を自動的に制限する方式を採用しています。

（縫い目のあらさが5mmのときは最大伸縮比は、約1.8に制限されます。）

① 縫い伸びする布
② 縫い縮みする布

●上メスの解除ともどし方

上メスの駆動と解除を上メスつまみで切り替えられます。縫い目の種類に合わせて切り替えてください。

⚠電源スイッチを切ってください。

1 解除のし方

1.ルーパーカバーと布板をひらきます。

2.上メスつまみを引きながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまで押しさげます。

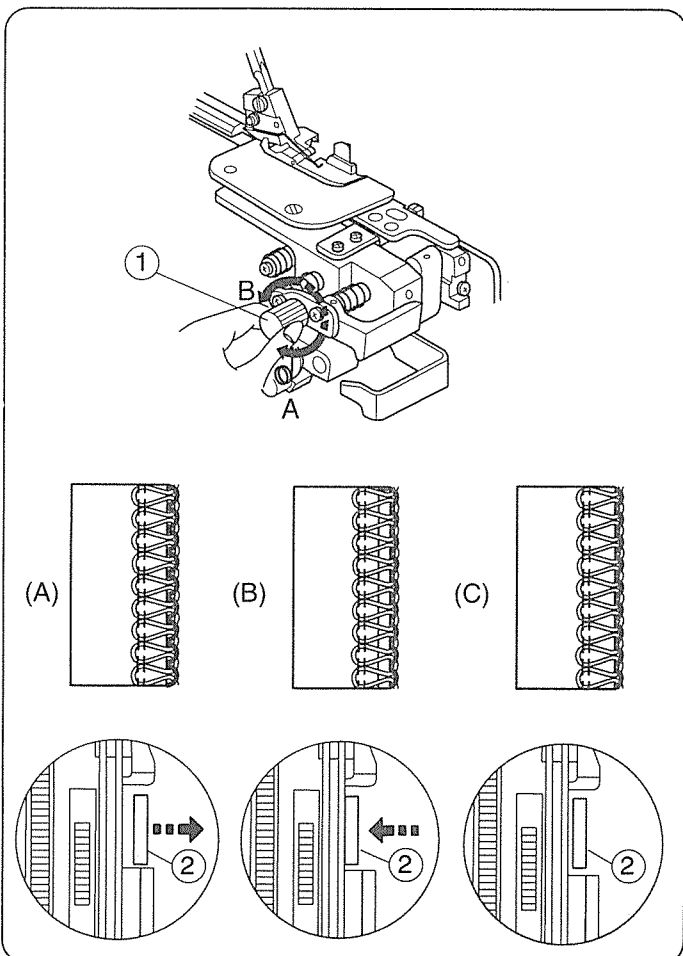
3.はずみ車をまわして、上メスの解除を確認します。

4.ルーパーカバーと布板をしめます。

2 もどし方

1.ルーパーカバーと布板をひらきます。
2.上メスつまみを引きながら、案内みぞにそってストッパーに当たるまで押しあげます。
3.はずみ車をまわして、上メスの動きを確認します。
4.ルーパーカバーと布板をしめます。

① 上メスつまみ
② 上メス

●切り幅の調節

布はしと縫い目が合っていないときは、切り幅を調節します。その上で、きれいにあわないときは糸調子の調節をします。
切り幅の調節は次のように操作します。

⚠電源スイッチを切ってください。

1. ルーパーカバーと布板をひらきます。

2.切り幅調節ダイヤルをまわして、布はしと縫い目を合わせます.

A方向にまわすと切り幅が広くなります。
B方向にまわすと切り幅が狭くなります。

3.ルーパーカバーと布板をしめます。

4.試し縫いをして、切り幅を確認します。

*このミシンは、右針から約3mmから5mm幅まで切り幅を調節できますが、使用する布に合わせて調節してください。

① 切り幅調節ダイヤル
② 下メス

(A) 布ふちが縫い目にとどかない場合：
　下メスを右へ移動する。
(B) 布ふちが余りすぎてシワになる場合：
　下メスを左へ移動する。
(C) 正しい縫い目

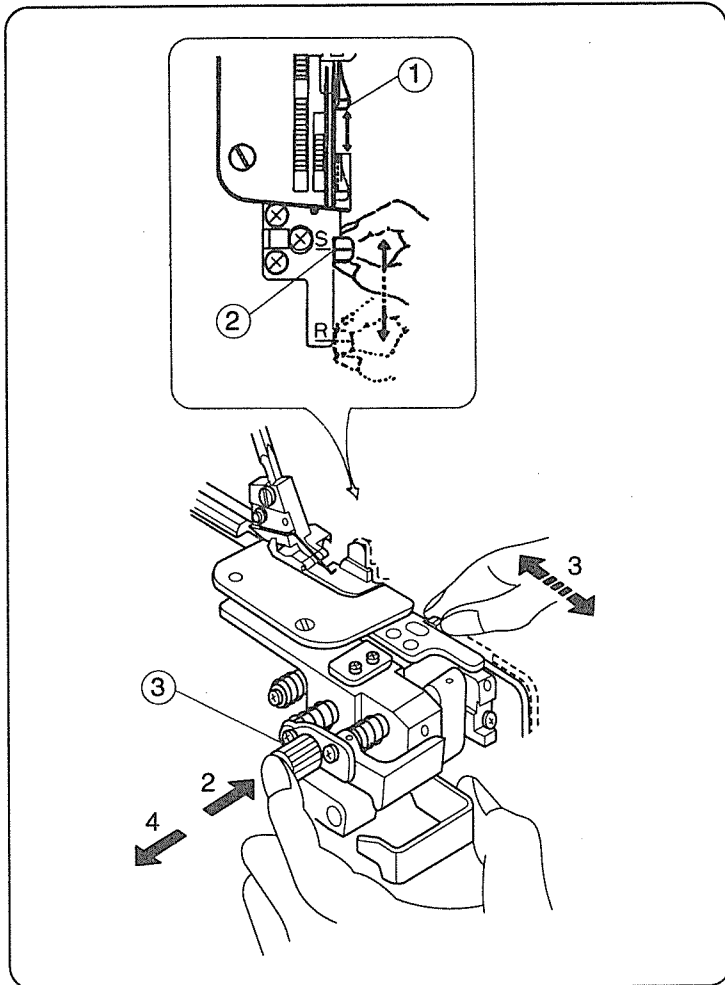
●ふちかがり縫いと巻き縫いの切り替え(かがり爪位置の切り替え)

かがり爪位置はSとRがあり、縫い目の種類に合わせて切り替えます。

◆切り替え方

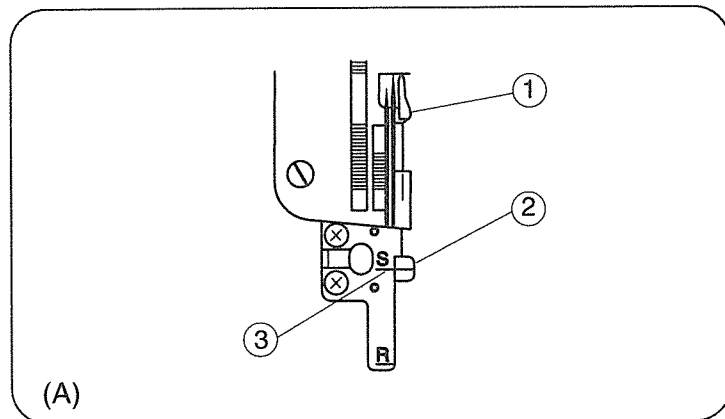
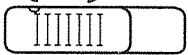
⚠電源スイッチを切ってください。

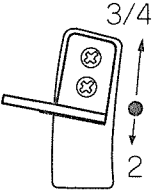
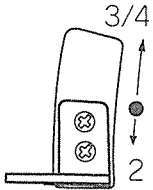
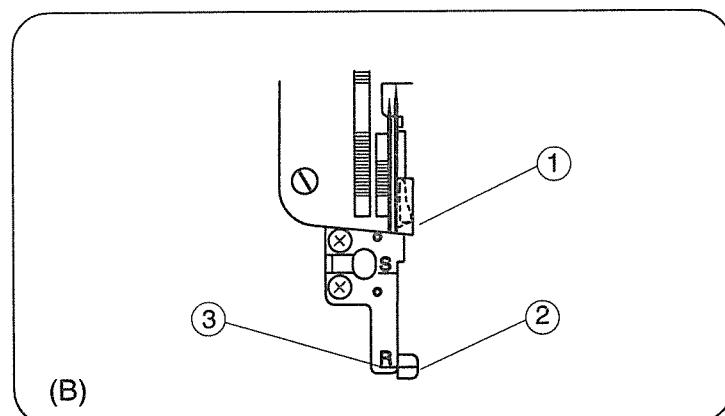
1. ルーパーカバーと布板をひらきます。
2. 切り幅調節ダイヤルを右いっぱいに押しながら、
3. かがり爪つまみをS側またはR側へ移動します。
4. 切り幅調節ダイヤルは手をそっとはなせば、元にもどります。
5. ルーパーカバーと布板をしめます。

①かがり爪
②かがり爪つまみ
③切り幅調節ダイヤル

✱かがり爪つまみ位置

(A)普通のふちかがり縫いの場合
　　かがり爪つまみ位置:S側

普通のふちかがり縫いでは布ふちでかがり糸を支えるため、(A)のようにかがり爪を針板の側面に位置させます。

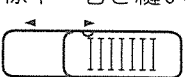
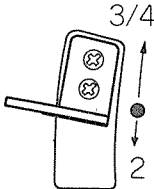
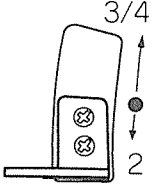
①かがり爪
②かがり爪つまみ
③指示線S

(B)巻き縫い(ピコ縫い、細ロック縫い)の場合
　　かがり爪つまみ位置:R側

巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫いでは布ふちをまきこみますから、かがり爪は不要となり、(B)のように針板の下側に引き込んでおきます。

①かがり爪
②かがり爪つまみ
③指示線R

●補助糸調子スライドつまみとスライド糸案内の設定

補助糸調子スライドつまみ	
〈普通のふちかがり縫い〉	〈巻き縫い〉
標準　巻き縫い	標準　巻き縫い

＊2本、3本、4本糸の縫いすべてについて適用されます。

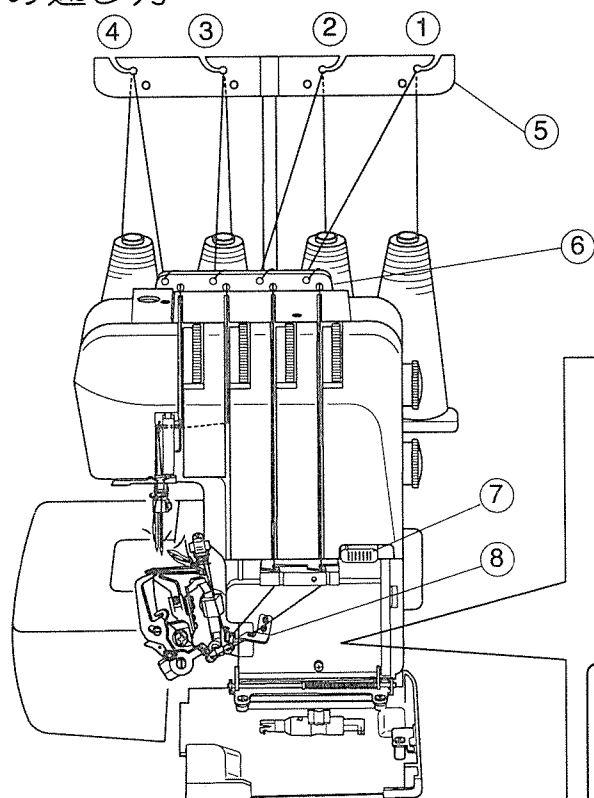
スライド糸案内	
〈3本または4本糸での縫い〉	〈2本糸での縫い〉
3/4 ・ 2	3/4 ・ 2

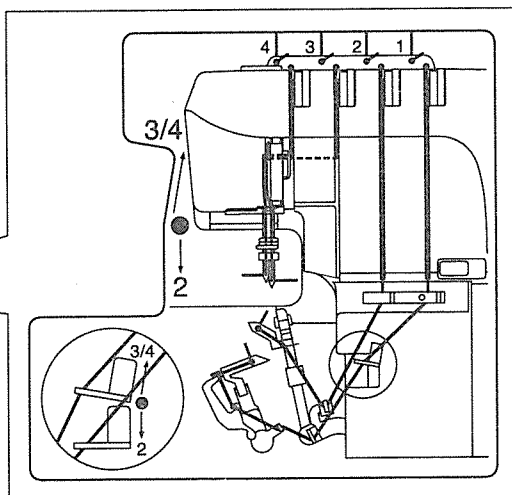
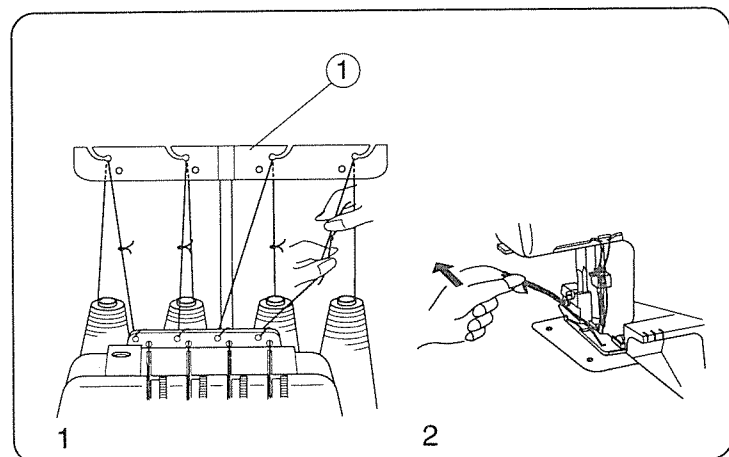
＊スライド糸案内は、ルーパーカバーをあけると正面にあります。（14ページ参照）
3本又は4本糸の縫いと、2本糸の縫いによって必ず切り替えてください。

＊ 注意 ＊

3本または4本糸縫いと2本糸縫いでは、必ず「スライド糸案内」を切り替えてください。
「スライド糸案内」を正しく切り替えていないと、「補助糸調子スライドつまみ」を縫いに合わせてセットしても適正な糸調子が得られず、正しい縫い目になりません。

※「補助糸調子スライドつまみ」と「スライド糸案内」の設定組み合わせによって、下ルーパー糸の張力は次の表のように設定されます。

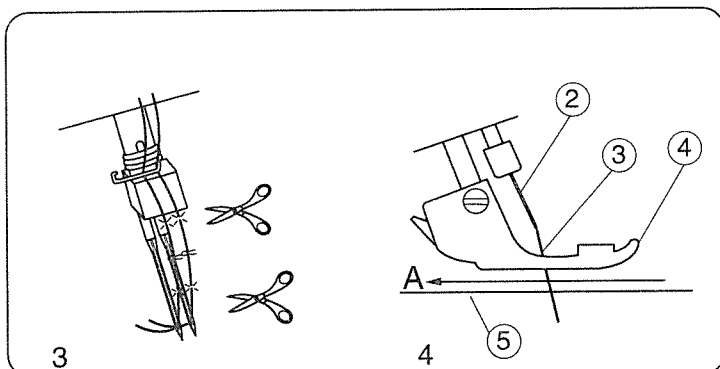
補助糸調子スライドつまみ ／ スライド糸案内	＜普通のふちかがり縫い＞ 標準　巻き縫い	＜巻き縫い＞ 標準　巻き縫い
〈3本または4本糸での縫い〉 3/4 ・ 2	張力上乗せ なし	張力上乗せ あり
〈2本糸での縫い〉 3/4 ・ 2	張力上乗せ あり	張力上乗せ なし

●糸の通し方

左の図は４本の糸を通し終わった状態です。

①下ルーパー糸　⑦補助糸調子スライドつまみ
②上ルーパー糸　⑧スライド糸案内
③右針糸
④左針糸
⑤糸掛けスタンド
⑥糸案内板

糸道案内図

このミシンは、あらかじめ糸がセットしてありますが、ご使用になる糸に交換するときは、次のようにすると、容易に糸が通せます。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

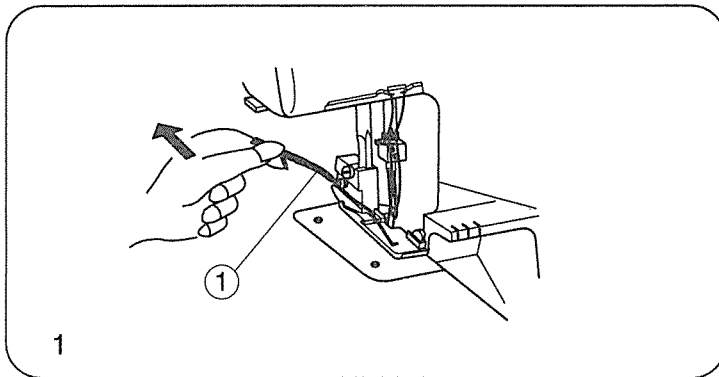
1. 糸こまから引き出した糸を糸掛けスタンドの糸掛けに通してから糸をつないでください。
2. 押さえ上げをあげ、結び目を押さえの下から向こう側へ出るまで引き出します。
3. ただし、針糸を引き出すときは、結び目を針穴の手前で止め、結び目を切ってから針穴に通します。
4. 縫い始める前に、押さえの下で針糸を払って、針糸が針板の下にないことを確認してから、押さえの後ろへ10cmほど各糸を引き出します。（A方向に針糸を払います。）
5. 押さえをおろして糸通しは終了です。

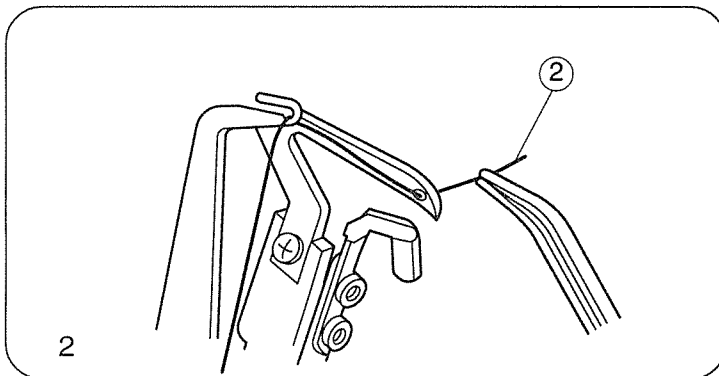
①糸掛けスタンド　④押さえ
②針　⑤針板
③針糸

● 新たに糸を通すときは、下ルーパー糸、上ルーパー糸、右針糸、左針糸の順が通しやすいやり方です。順序が違っても、最後に押さえの下で針糸を後ろに払って、針糸が針板の下にないことを確認してから押さえの後ろへ10cmほど各糸を引き出しておけば糸通しは終了です。

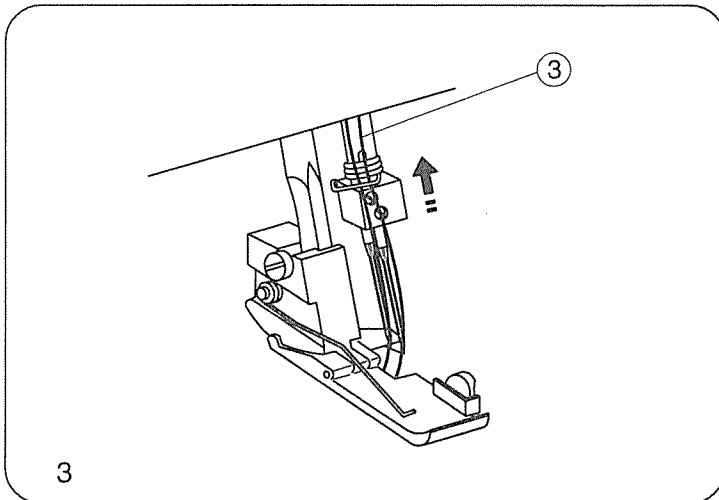
◆糸が1本だけ切れて通し直すときは次のようにします。

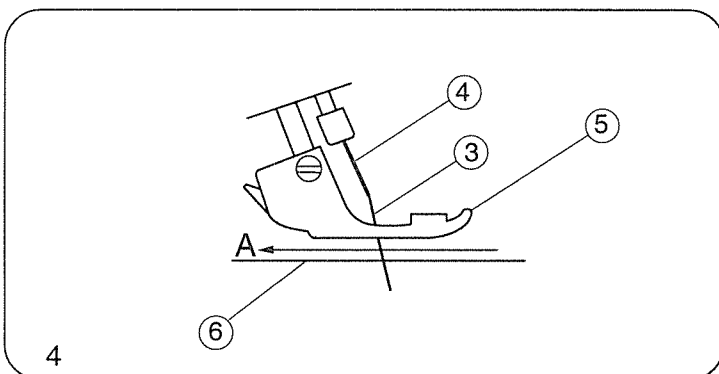
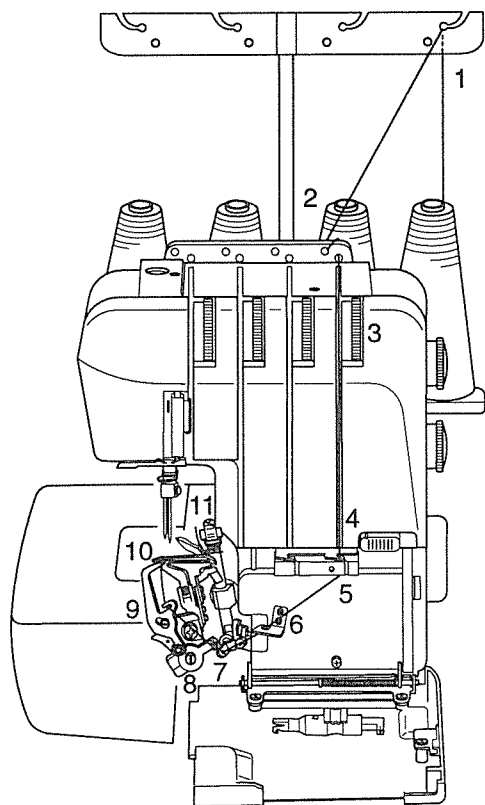
⚠ 電源スイッチを切ってください。

1.切れてない残りのからみ合った糸を押さえの後ろまで引き出して切り、糸どうしがからまっていない状態にします。

①からみ合った糸を切る

2. 切れた糸を通し直します。
（たとえば、下ルーパー糸を通し直します。）

②下ルーパー糸

3.はずみ車を手前にまわし、針を上いっぱいまであげます。

③針糸

4.押さえの下の針糸を後ろに払って、針糸を針板の上に引き出し、押さえの後ろへ 10 ｃｍほど各糸を引き出しておけば、糸通しは終了です。（A方向に針糸を払います。）

③針糸
④針
⑤押さえ
⑥針板

◆下ルーパー糸の通し方

＊緑色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると見えます。

⚠電源スイッチを切ってください。

1. 糸こまから引き出した糸を、右側の糸掛けに掛けます。

①糸掛け

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

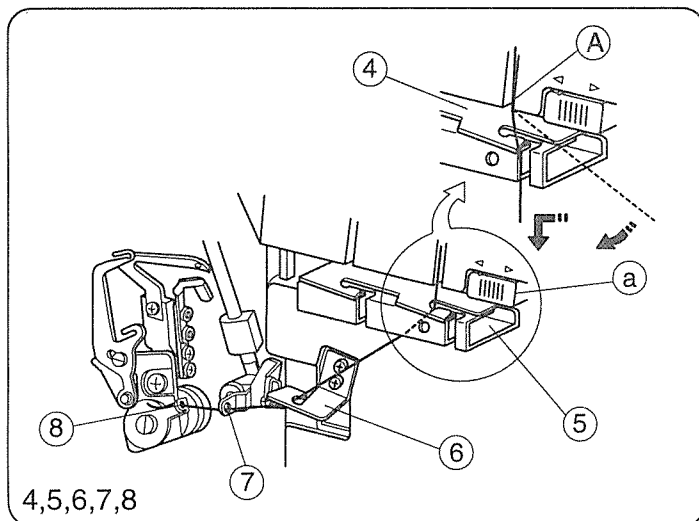
2. 糸を糸案内板の一番右側の2つの穴に通します。

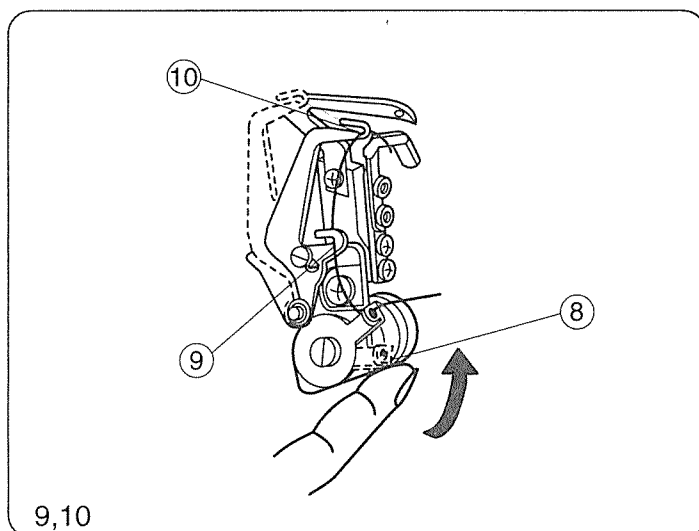
②糸案内板

3. 溝にそって糸を引き、下ルーパー糸調子器に糸を通します。

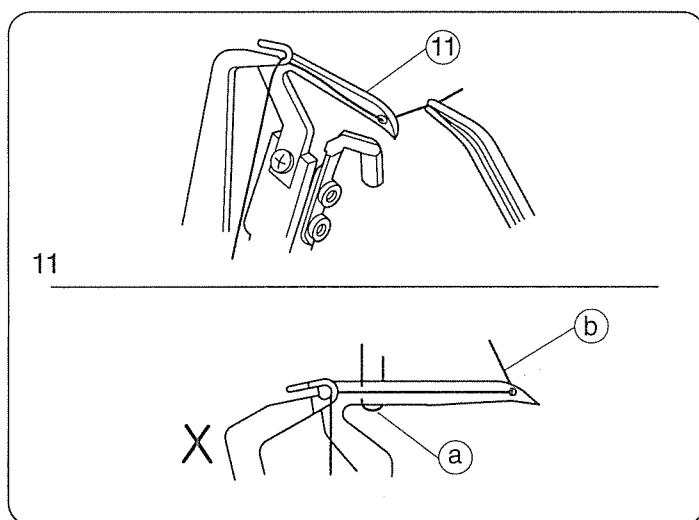
＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

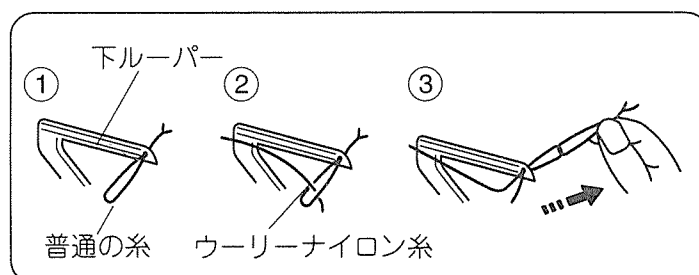
＊糸の両端をもってやさしくしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

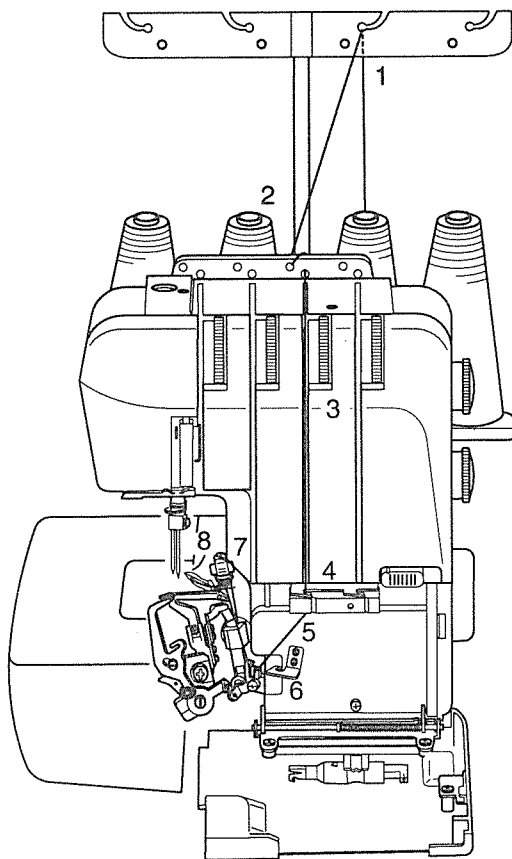
③下ルーパー糸調子器
ⓐ糸
ⓑ糸調子皿

4,5. 糸を正面カバーの角部Ⓐ、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の右側溝に通します。
6. スライド糸案内に糸を通します。
7. ルーパー天秤(下)に糸を通します。
8. 下ルーパー糸案内(1)に糸を通します。
＊下ルーパー糸通しをするときは、補助糸調子スライドつまみを"標準"側に、スライド糸案内を"3/4"本糸側にあわせておきます。

④糸ガイド　⑦ルーパー天秤(下)
⑤ルーパー糸案内　⑧下ルーパー糸案内(1)
⑥スライド糸案内　ⓐ補助糸調子スライドつまみ

9. はずみ車を回して下ルーパーを最右点にして下ルーパー糸案内(1)を持ち上げると、下ルーパー糸案内(2)、(3)が、上方に現われます。
10. 下ルーパー糸案内(2)、(3)に糸を掛けます。糸の先端を持って、下ルーパー糸案内(1)を指で押し下げると下ルーパー糸案内(2)、(3)は、元の位置に戻ります.

⑧下ルーパー糸案内(1)
⑨下ルーパー糸案内(2)
⑩下ルーパー糸案内(3)

＊下ルーパー糸案内(1)をもどしわすれても、はずみ車を手前にまわすと、下ルーパー糸案内(1)、(2)、(3)は自動的に元の位置にもどります。

11. はずみ車を回して、再び下ルーパーを最右点にします。下ルーパー糸穴に糸を通し、糸端は、糸穴から10cmほど引き出しておきます。
＊この際、先に針糸が通っていて下ルーパーが針糸ループを捕捉した状態で下ルーパー糸を通しますと、針糸が下ルーパーから抜けられないので正しく縫えません。針糸を下ルーパーからはずして、下ルーパー糸を通してください。
12. ルーパーカバーをしめます。

⑪下ルーパー
ⓐ針糸
ⓑ下ルーパー糸

◆ウーリーナイロン糸の通し方

下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸は、左図の方法で通します。
＊上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

◆上ルーパー糸の通し方

＊赤色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると見えます。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

1. 糸こまから引き出した糸を、右から2番目の糸掛けに掛けます。

①糸掛け

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

2. 糸を糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。

②糸案内板

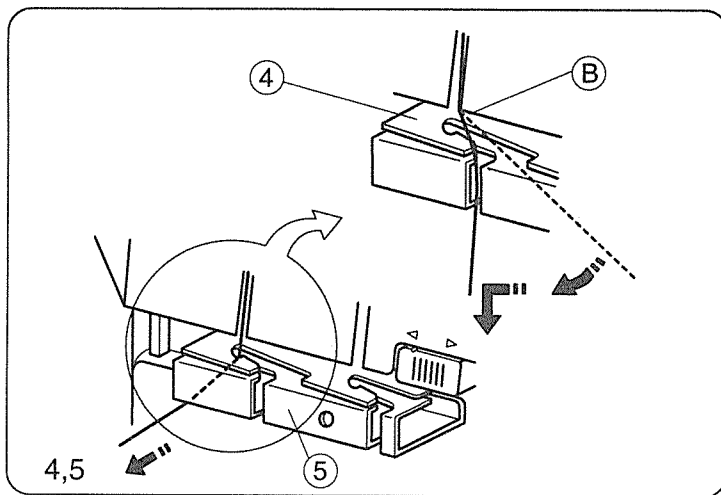
3. 溝にそって糸を引き、上ルーパー糸調子器に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

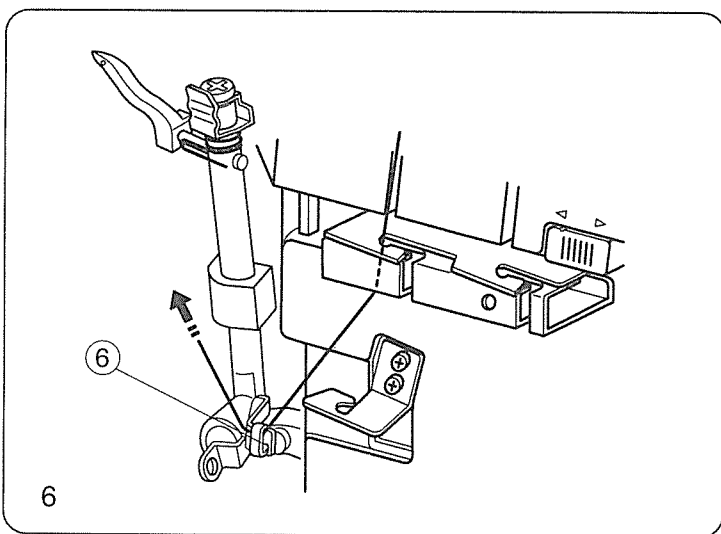
＊糸の両端をもってやさしくしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

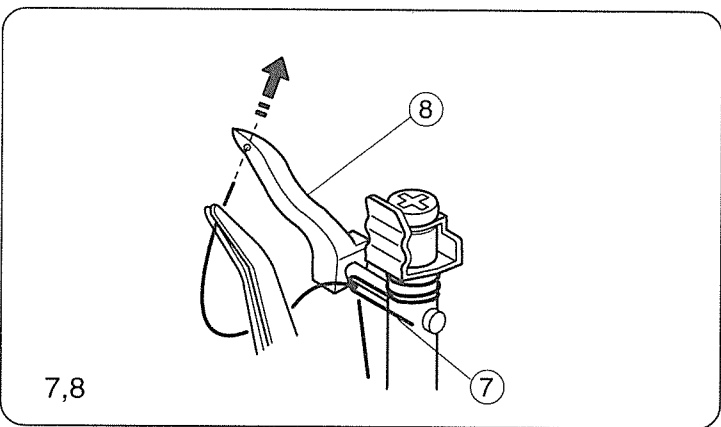
③上ルーパー糸調子器

ⓐ糸

ⓑ糸調子皿

4,5.糸を正面カバーの角部Ⓑ、糸ガイド先端の順に案内し、ルーパー糸案内の左側溝に通します。

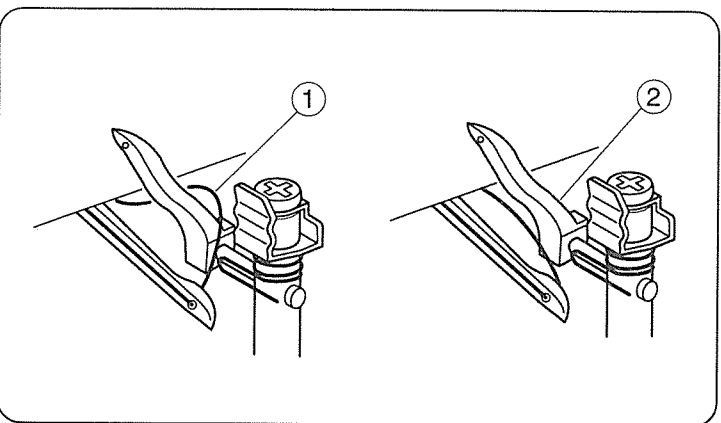
④糸ガイド

⑤ルーパー糸案内

6.ルーパー天秤(上)のフック部に糸を掛けます。

⑥ルーパー天秤(上)

7.上ルーパー糸案内のフック部に右側から糸を掛けます。

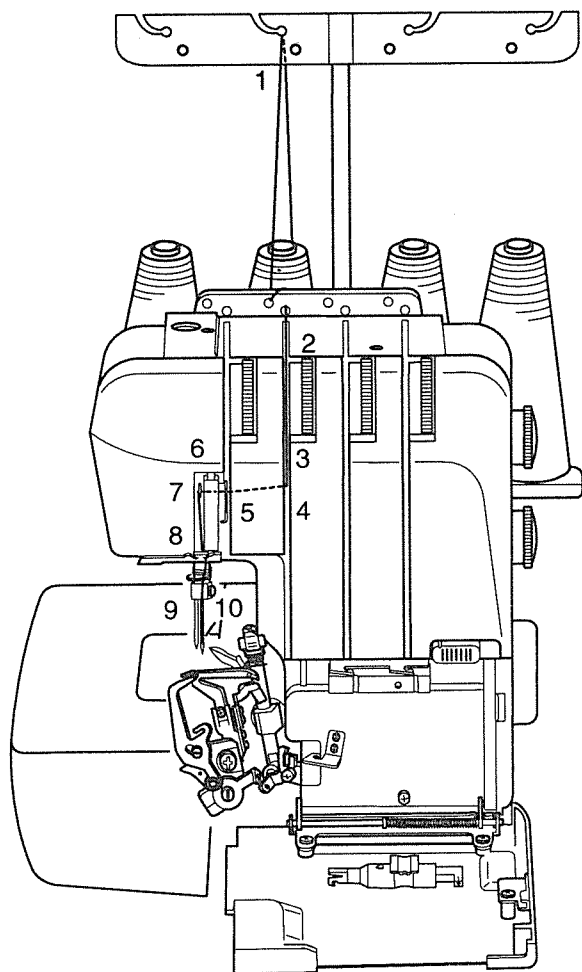
8. 糸の先端をピンセットでつまみ、上ルーパーの穴に通します。糸は糸穴から10cmほど引き出しておきます。

9. ルーパーカバーをしめます。

⑦上ルーパー糸案内

⑧上ルーパー

＊上ルーパー糸を通すときは、上ルーパーから下ルーパー糸をはずして通してください。

①下ルーパー糸

②上ルーパー

◆右針糸の通し方

＊青色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると見えます。

⚠電源スイッチを切ってください。

1.糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。

①糸掛け

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

2.糸を糸案内板の左から2番目の2つの穴に通します。

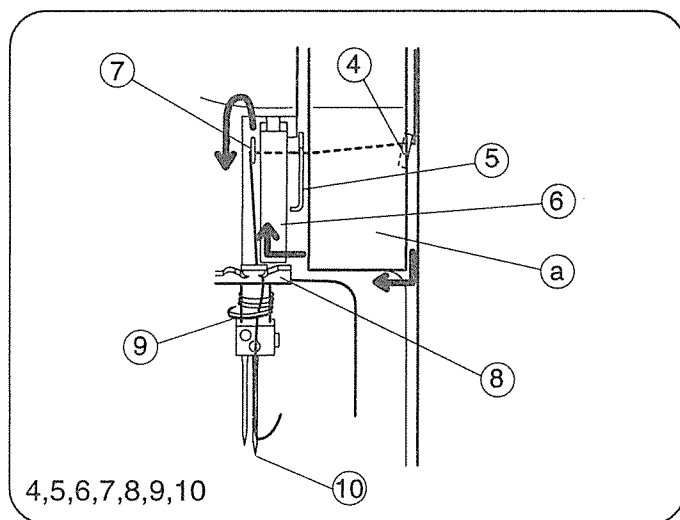
②糸案内板

3. 溝にそって糸を引き、針糸調子器(右)に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもってやさしくしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

③針糸調子器(右)

ⓐ糸　ⓑ糸調子皿

4,5,6.はずみ車を手前に回して針を最上部にあげます。
糸を正面カバーの溝に沿って糸道カバーの下側まで引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。

7.次に、天秤カバーの左側面に沿って糸を引き上げ、正面カバー糸案内(3)の上側から糸を通します。

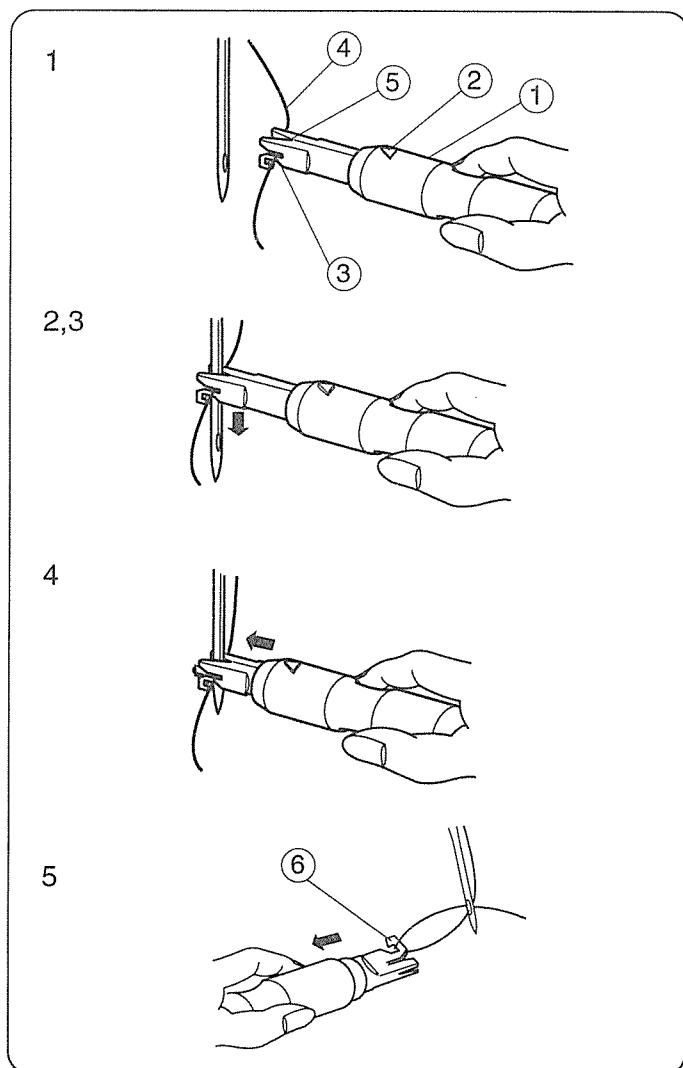
8. 針糸案内の右側の溝に糸を掛けます。

9,10.針棒糸掛けに左側から糸を掛け、右針の針穴に手前から糸を通します。

糸は押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

11.ルーパーカバーをしめます。

④正面カバー糸案内(1)
⑤正面カバー糸案内(2)
⑥天秤カバー
⑦正面カバー糸案内(3)
⑧針糸案内
⑨針棒糸掛け
⑩右針
ⓐ糸道カバー

◆ 糸通し器の使い方

針に糸を通すときは、付属の糸通し器を利用すれば、かんたんに糸を通すことができます。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

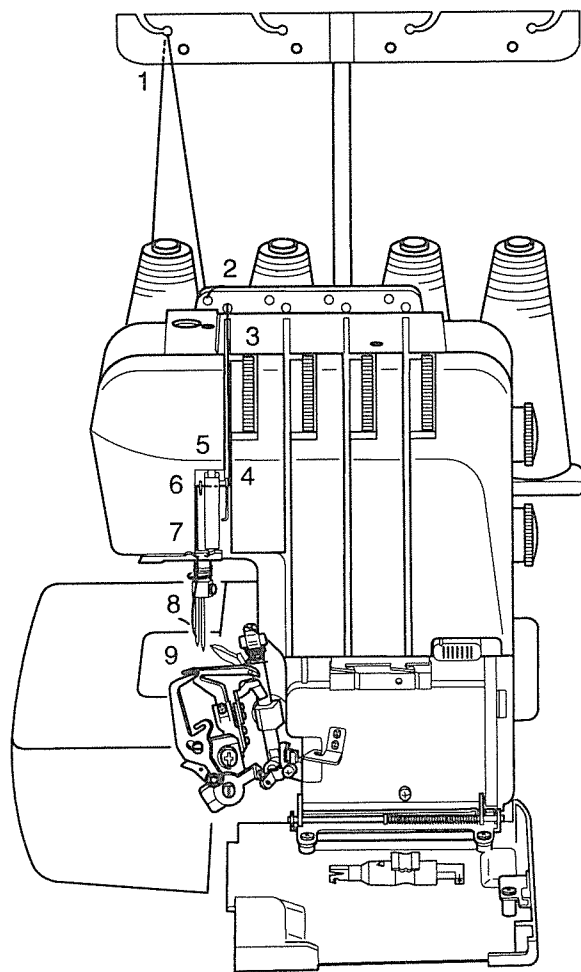
1.ホルダーの三角マークを上向きにして持ち、針糸を横向きのY字溝に入れます。

2.ホルダーの三角マークを上向きにして、糸のはしを持ち、V字溝を針の中ほどに軽く押し当てます。

3.糸はしを持ったまま、ホルダーを針に軽く押し当てながら下にゆっくりとすべらせます。

4.糸通しピンが針穴に入ったら、ホルダーを押して針糸を針穴に通します。

5.ホルダーをゆっくり戻し、糸輪をフックに掛け後ろに引き出します。

①ホルダー
②三角マーク
③Y字溝
④針糸
⑤V字溝
⑥フック

◆左針糸の通し方

＊オレンジ色マークの糸道を通してください。

＊ルーパーカバーをひらきます。

＊糸道案内図は、ルーパーカバーをあけると見えます。

⚠電源スイッチを切ってください。

1. 糸こまから引き出した糸を、左側の糸掛けに掛けます。

①糸掛け

＊通常は(A)のように糸を掛けますが、糸掛けから外れやすい糸は(B)のように穴にもう一度通します。

2.糸を糸案内板の一番左側の2つの穴に通します。

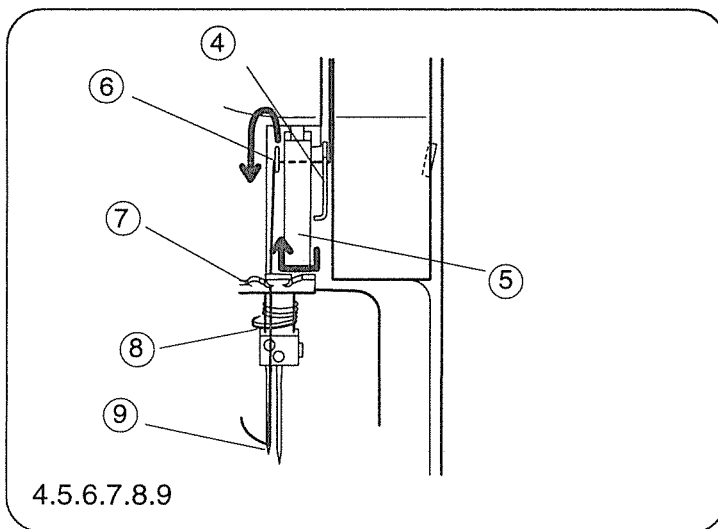
②糸案内板

3. 溝にそって糸を引き、針糸調子器(左)に糸を通します。

＊押さえ上げを上げると糸調子皿が開放され、糸が入りやすくなります。

＊糸の両端をもってやさしくしごき、糸が確実に糸調子皿2枚の間に入っていることを確かめてください。

③針糸調子器(左)

ⓐ糸　ⓑ糸調子皿

4,5.はずみ車を手前に回して針を最上部にあげます。
糸を正面カバーの溝に沿って正面カバー糸案内(2)の下側まで 引き降ろし、そのまま天秤カバーの下までまわします。

6.次に、天秤カバーの左側面に沿って糸を引き上げ、正面カバー糸案内(3)の上側から糸を通します。

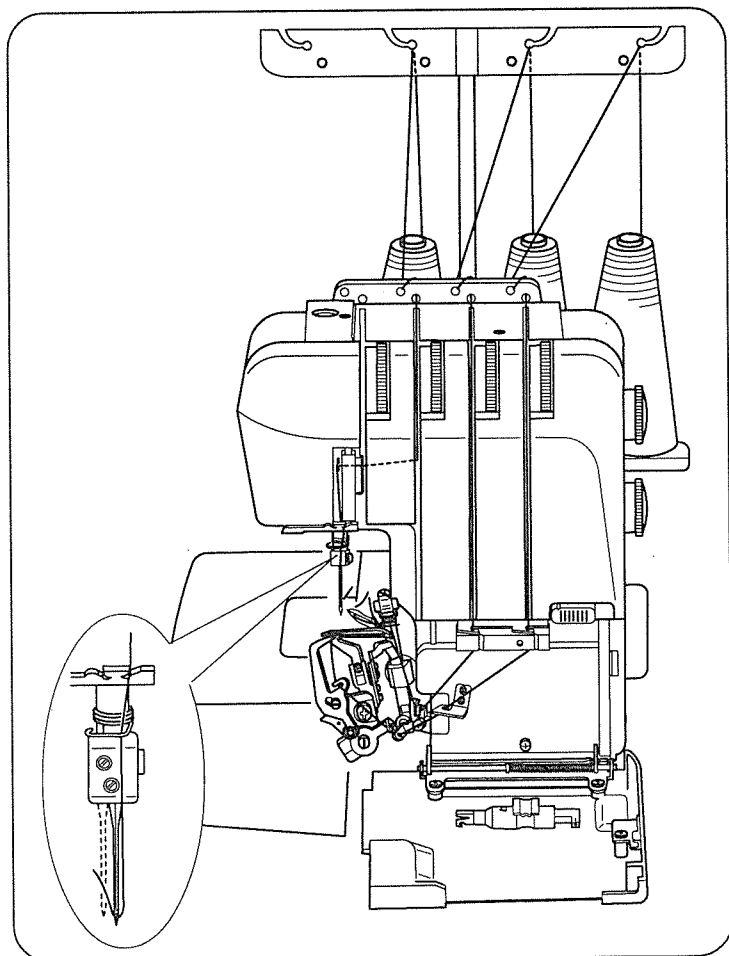
7.針糸案内の左側の溝に糸を掛けます。

8,9.針棒糸掛けに左側から糸を掛け、左針の針穴に手前から糸を通します。
糸は押さえの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

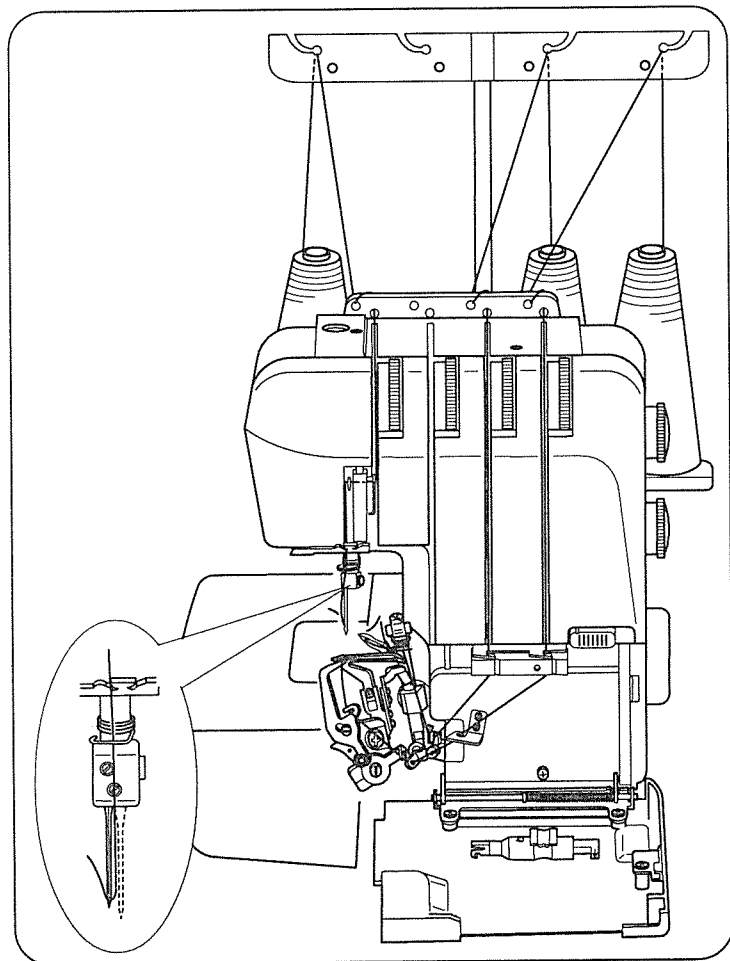
10.ルーパーカバーをしめます。

④正面カバー糸案内(2)
⑤天秤カバー
⑥正面カバー糸案内(3)
⑦針糸案内
⑧針棒糸掛け
⑨左針

＊針に糸を通すときは、付属の糸通し器を利用すれば、かんたんに糸を通すことができます。
(21ページ参照)

●3本糸縫いの糸の通し方

このミシンでは1本針3本糸のかがり縫いも行なえますが、針のとりつけ方で、かがり幅をかえることができます。

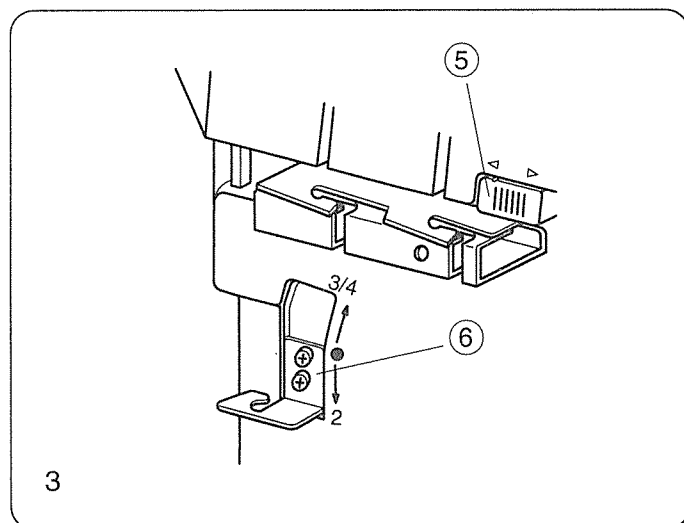
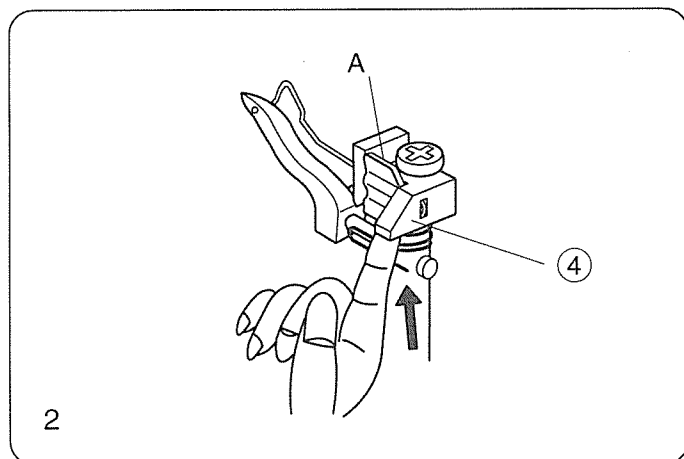
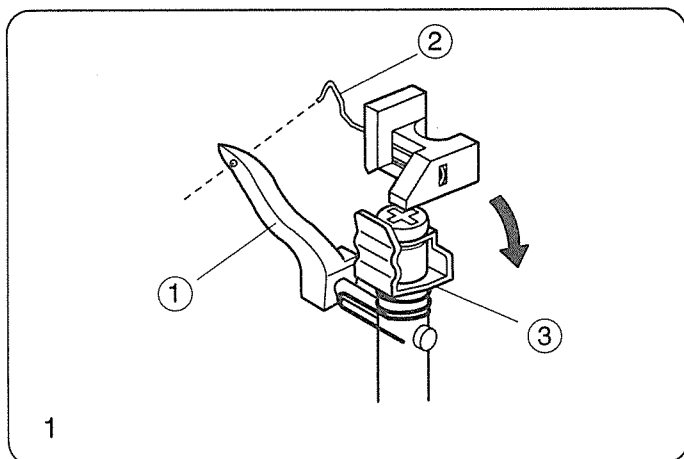
糸は上ルーパー糸、下ルーパー糸、そして右か左の針糸を使います。

◆右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は3.5mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

◆左針を使うとき

左針を使うと、標準のかがり幅は5.7mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

＊使用しない針側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんではずれないように軽くしめておきます。

●2本糸縫いへの切り替え

＊2本糸縫いでは付属のスプレッダーを使います。

◆スプレッダーのつけ方

⚠電源スイッチを切ってください。

1. 上ルーパーの穴に、スプレッダーの先端を後方から入れ、スプレッダーをホルダーに差し込みます。

①上ルーパー

②スプレッダー

③ホルダー

◆スプレッダーのはずし方

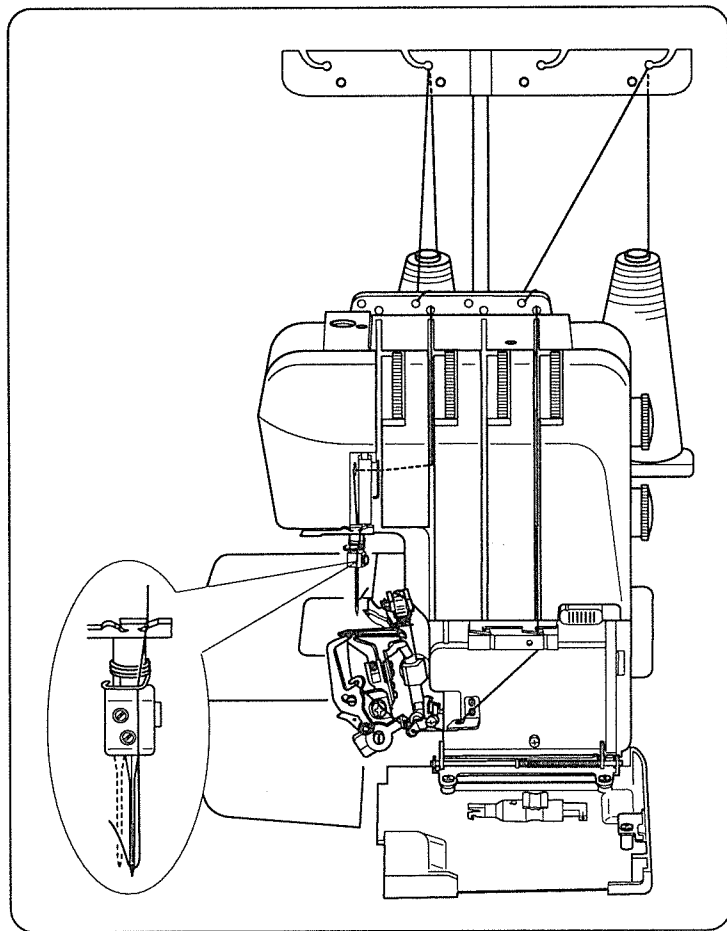
2. ホルダーのばねA部を、手前に軽く引きながらスプレッダーの突起を押し上げて抜き取ります。

④スプレッダーの突起

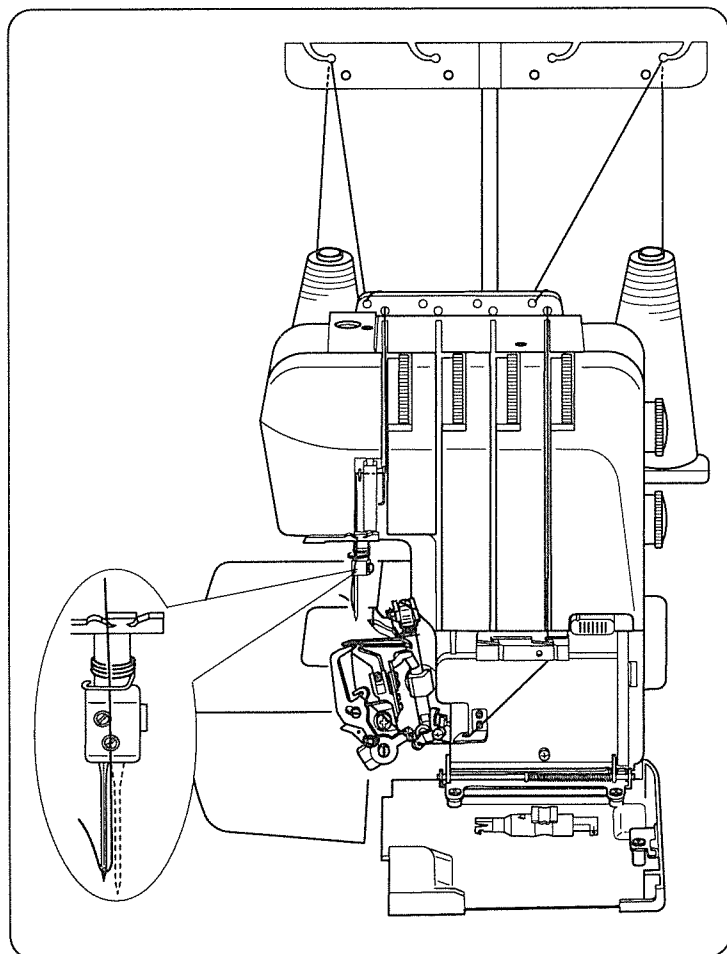
3. 2本糸ふちかがり縫いは、補助糸調子スライドつまみを"標準"側に、スライド糸案内を"2"本糸側にあわせます。

⑤補助糸調子スライドつまみ
"標準"側

⑥スライド糸案内
"2"本糸側

●2本糸ぬいの糸の通し方

1本針2本糸のかがり縫いも、1本針3本糸のかがり縫いと同じように、針のとりつけ方で、かがり幅を変えることができます。

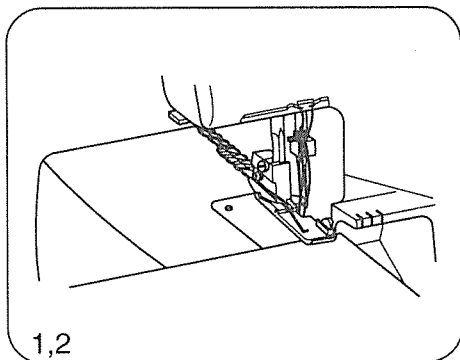
糸は下ルーパー糸と右か左の針糸を使います。

◆ 右針を使うとき

右針を使うと、標準のかがり幅は3.5mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

◆ 左針を使うとき

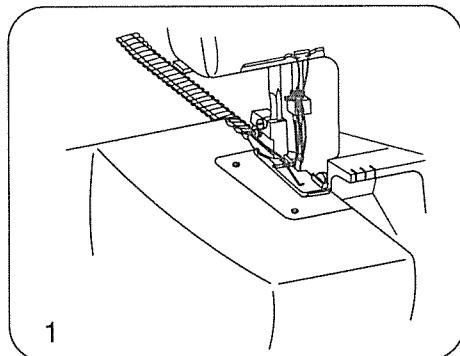
左針を使うと、標準のかがり幅は5.7mmです。
糸の通し方は左図のようになります。

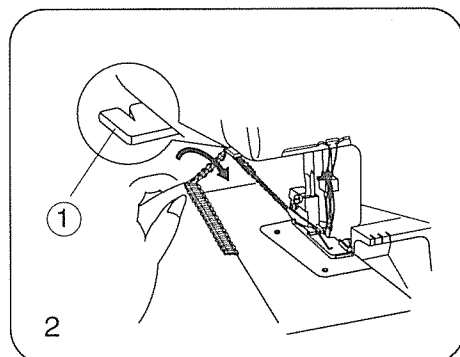
＊使用しない針側の針止めねじは、針のセットが終わったら、ゆるんではずれないように軽くしめておきます。

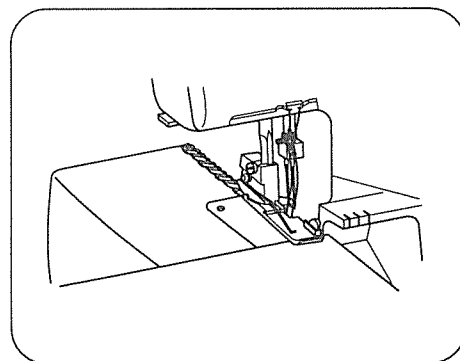
●試し縫いをしましょう

◆縫い始め

1. 押さえ上げをさげます。

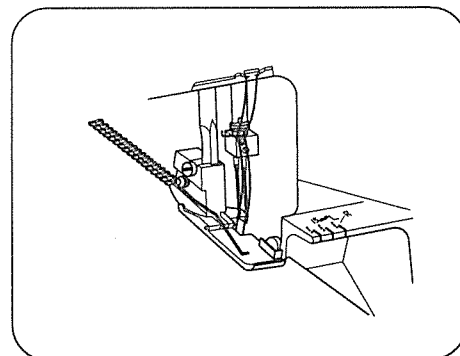
2.各糸を押さえの下から向こう側に引きそろえて、軽く向こう側へ引きながらゆっくり縫い始め、5~6cm、カラ縫いをします。
カラ縫いした糸のからみぐあいを確かめながら、布をセットして縫い始めます(押さえをあげる必要はありません)。
布は自動的に送られますから、手は、縫いたいと思う方向に布を導くだけにしてください。

*厚い布を縫うときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながら縫い始めます。

◆縫い終わり

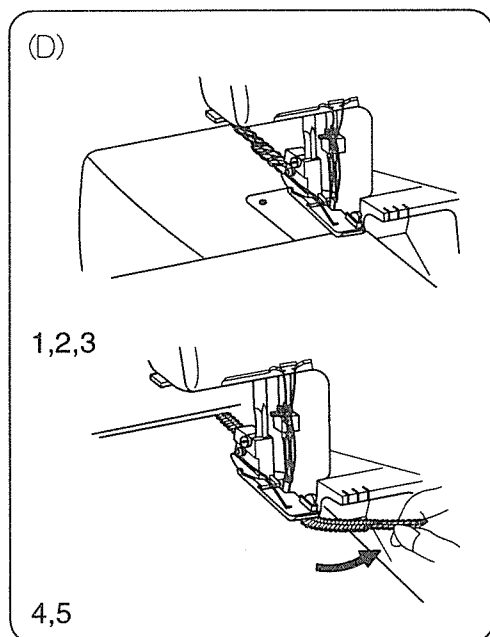
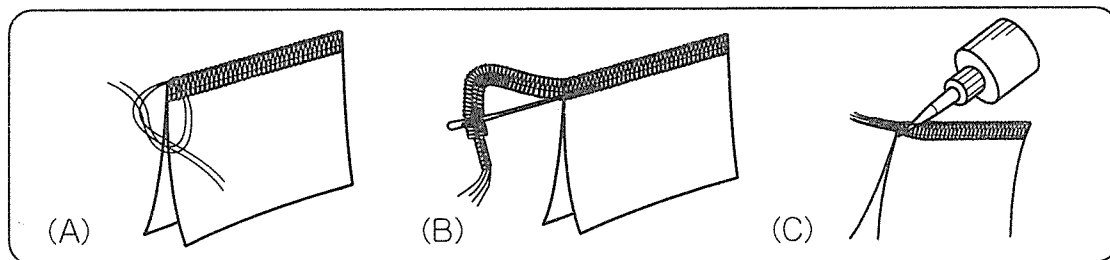
1.布端まで縫い終わったら、そのままミシンを低速で、約12~13cm、カラ縫いをします。

2.布の端より5~6cm残し、カラ縫いをした糸を糸切りか、はさみで切ります。

①糸切り

◆つづけて縫うとき

押さえ上げをあげずに、つぎの布地を押さえの下に差し込むようにして縫います。

*厚い布を縫うときは、押さえ上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押さえ上げをさげて手で補助しながら縫い始めます。

◆ガイドラインの使い方

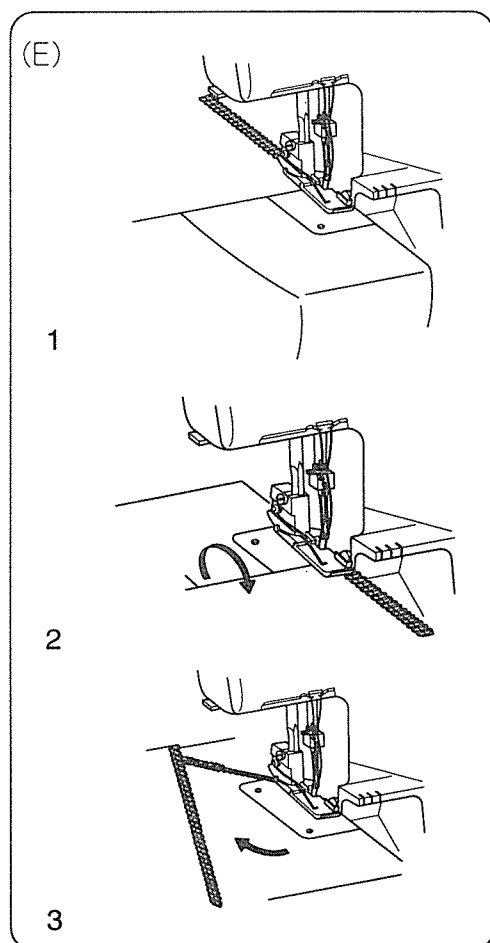
ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインが表示されています。布ふちから、縫い目までの目安としてお使いください。
3本ある刻み線は6mm間隔となっており、中央は針落ちから15mmです。
それぞれの刻み線は、実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

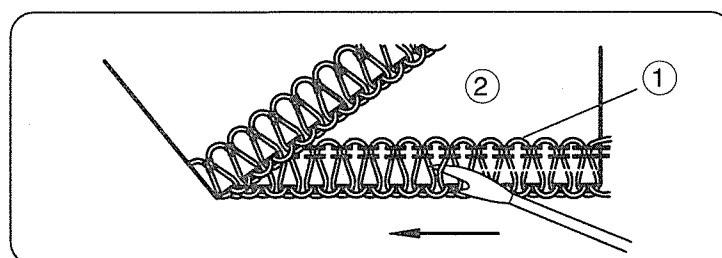
●縫い始め、縫い終わりの糸の始末、縫い目のほどき方

縫い始め、縫い終わりの糸をそのままにしておくとほつれてしまいます。縫い始め、縫い終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

(A) 5cm位のカラ縫い糸をほどき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。

(B) カラ縫い糸をとじ針で縫い目の中に入れる方法。

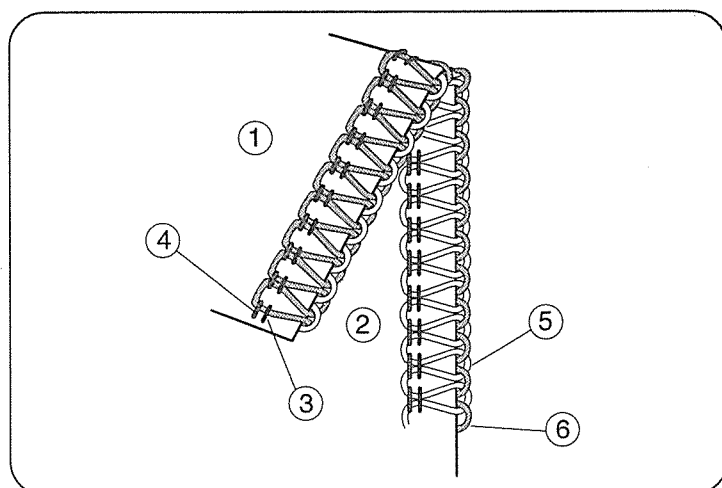
(C) 布端のカラ縫い糸の根元に手芸用ボンドを少し付け,乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。

(D) ロックミシンで縫い始めを始末する方法。
1. カラ縫い糸を5cm位出しておきます。
2. 布地を入れ、2〜3針だけ縫います。
3. ミシンを止め、押さえをあげます。
4. カラ縫い糸を左から押さえの下に入れ、軽く手前に引きながら、押さえを下げ、布といっしょに縫い込みます。
5. 2〜3cm縫ったら、カラ縫い糸を右に寄せてメスで切り落としながら縫いこみます。

(E) ロックミシンで縫い終わりを始末する方法
1. 布地の終わりの所でミシンを止めます。
2. 針と押さえを上げ、布地をかがり爪からはずして裏返します。かがり幅を合わせて針を落とし、押さえをさげます。
3. 今まで縫った所がメスに当たらないように2〜3cm縫いながら横方向に布地をはずします。
4. 余分なカラ縫い糸を切り落とします。

◆縫い目のほどき方

上ルーパー糸のすべてを市販のリッパーなどで布地を痛めないように切断しますと、簡単に縫い目がほどけます。

①上ルーパー糸

②表

●糸調子の出し方（2本針4本糸）

◆正しい糸調子

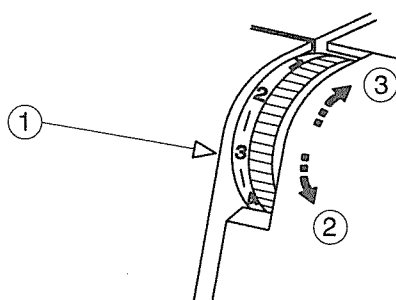
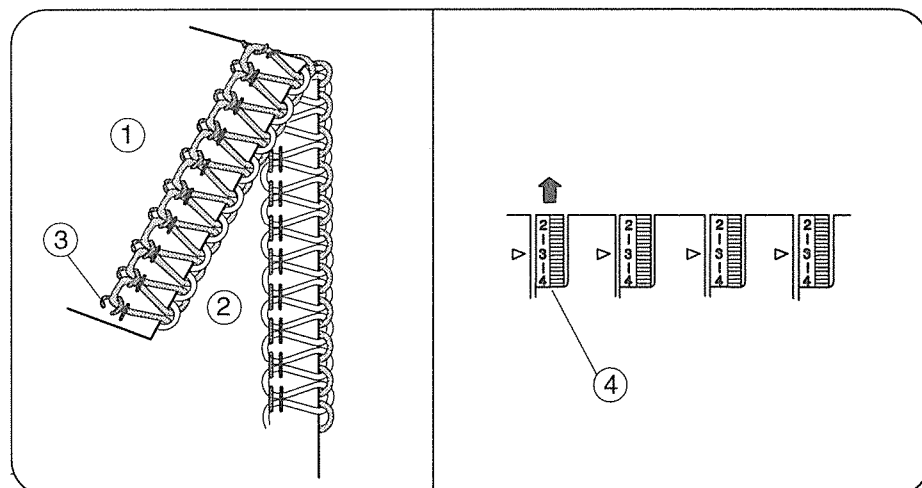
・針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。

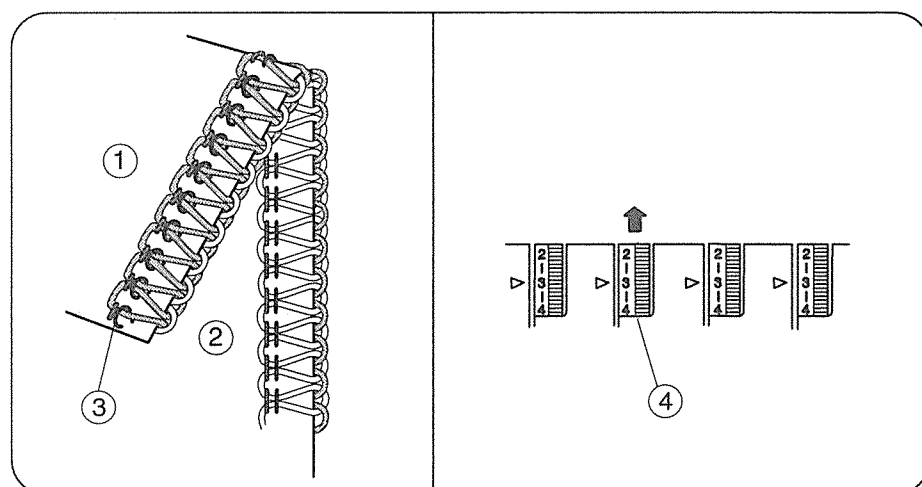
・糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。

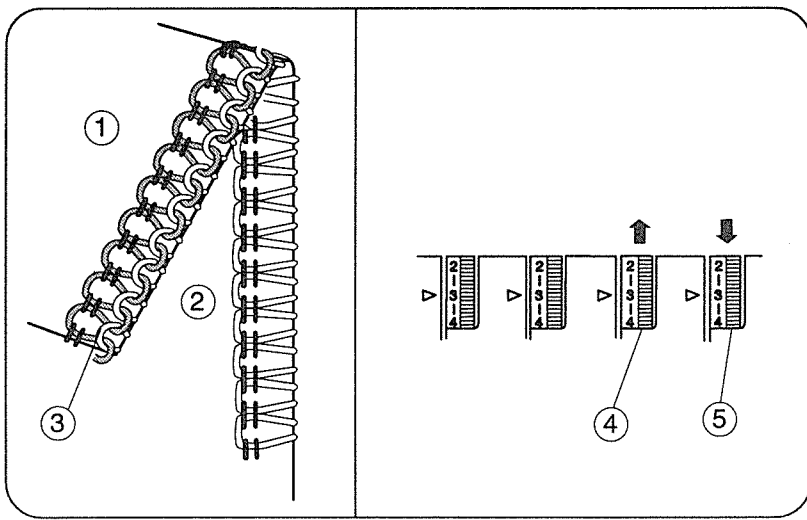
・縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

①裏　④左針糸
②表　⑤上ルーパー糸
③右針糸　⑥下ルーパー糸

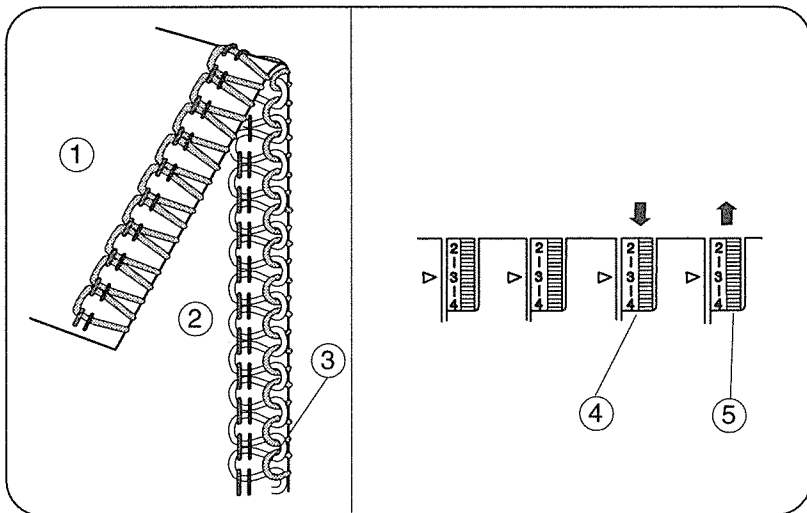
◆糸調子の調節のし方

＊左右の針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の4つの糸調子器は、目盛「3」を基準に試し縫いをして、縫い目を見ながら正しく調節してください。
＊最初に針糸から調節してください。

①指示マーク　③強くなる
②弱くなる

《左針糸が弱いとき》
針糸調子(左)を強くします。

①裏
②表
③布裏に左針糸のループが残る
④針糸調子器(左)を強くする

《右針糸が弱いとき》
針糸調子(右)を強くします。

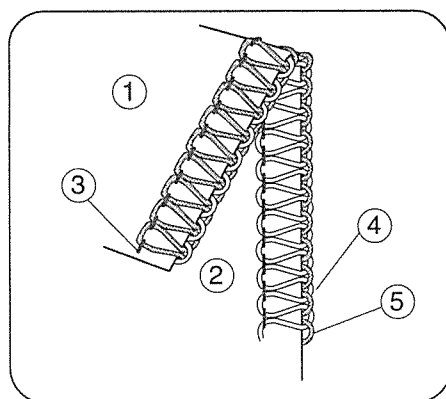
①裏
②表
③布裏に右針糸のループが残る
④針糸調子器(右)を強くする

《下ルーパー糸が強いか、
上ルーパー糸が弱いとき》

下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする。

①裏
②表
③上ルーパー糸が余分に引き出されている
④上ルーパー糸調子器を強くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を弱くする

《下ルーパー糸が弱いか、
上ルーパー糸が強いとき》

下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする。

①裏
②表
③下ルーパー糸が余分に引き出されている
④上ルーパー糸調子器を弱くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を強くする

●糸調子の出し方（1本針3本糸）

◆正しい糸調子

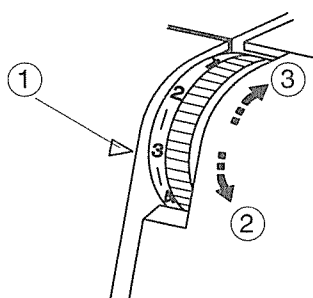
・ 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子は、糸調子器の目盛「3」を基準にしています。

・ 糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。

・縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

①裏　　④上ルーパー糸
②表　　⑤下ルーパー糸
③針糸

◆糸調子の調節のし方

＊針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の3つの糸調子器は、目盛「3」を基準に試し縫いをして、縫い目を見ながら正しく調節してください。

＊最初に針糸から調節してください。
① 指示マーク
② 弱くなる
③ 強くなる

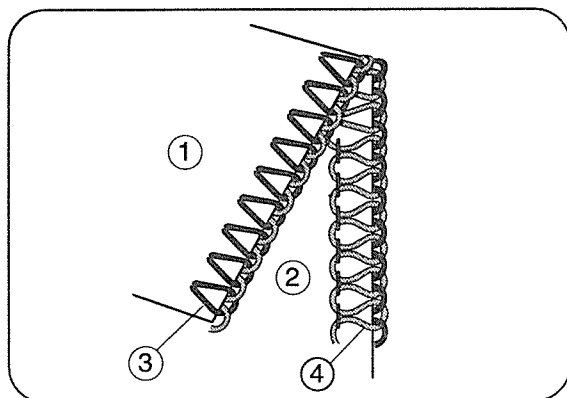
《針糸が弱いとき》
使用している側の針糸調子を強くする
①裏
②表
③布裏に針糸のループが残る
④針糸調子器（左）又は（右）を強くする

《下ルーパー糸が強いか、
上ルーパー糸が弱いとき》
下ルーパー糸調子を弱くする、または上ルーパー糸調子を強くする

①裏
②表
③上ルーパー糸が余分に引き出されている
④上ルーパー糸調子器を強くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を弱くする

《下ルーパー糸が弱いか、
上ルーパー糸が強いとき》
下ルーパー糸調子を強くする、または上ルーパー糸調子を弱くする

①裏
②表
③下ルーパー糸が余分に引き出されている
④上ルーパー糸調子器を弱くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を強くする

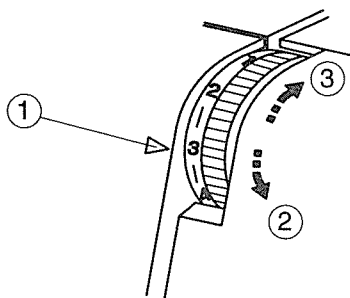
●糸調子の出し方（1本針2本糸）

◆正しい糸調子

＊糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって調節が異なりますが、まず下記の目盛を目安に試し縫いをして、縫い目を見ながら正しく調節してください。

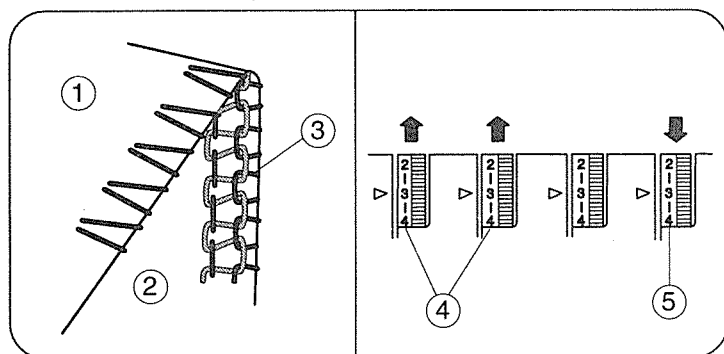
針糸：「2」
下ルーパー糸：「3～4」(補助糸調子スライドつまみ：「標準」側)

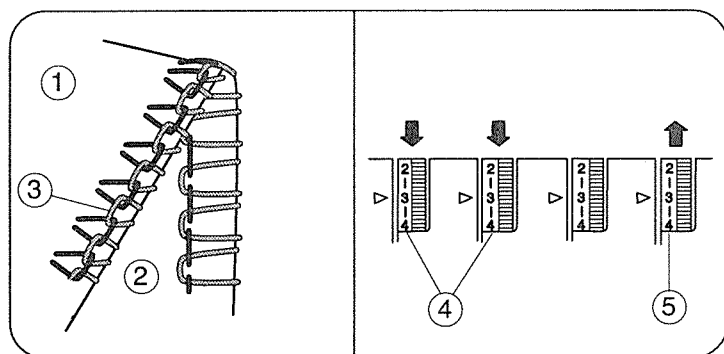
＊スライド糸案内は「2」本糸側にセットします。
その他の縫い条件の目安は33ページをご覧ください。

①裏　③針糸
②表　④下ルーパー糸

◆糸調子の調節のし方

①指示マーク
②弱くなる
③強くなる

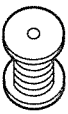
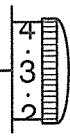
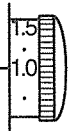
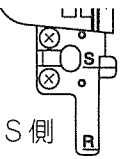
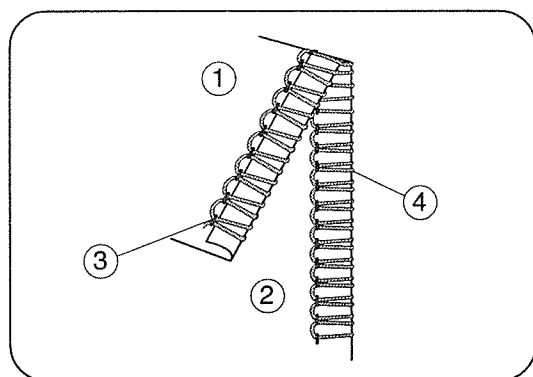
《下ルーパー糸が強いか、針糸が弱いとき》
下ルーパー糸調子を弱くする、または使用している側の針糸調子を強くする

①裏
②表
③針糸が余分に引き出されている
④針糸調子器(左)または(右)を強くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を弱くする

《針糸が強いか、下ルーパー糸が弱いとき》
使用している側の針糸調子を弱くする、または下ルーパー糸調子を強くする

①裏
②表
③下ルーパー糸が余分に引き出されている
④針糸調子器(左)または(右)を弱くする、または
⑤下ルーパー糸調子器を強くする

◆ 巻き縫い(1本針2本糸)の正しい糸調子

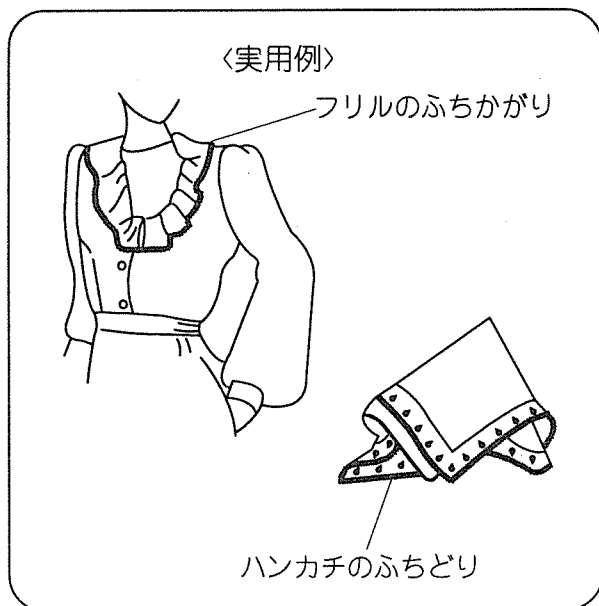
＊糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって調節が異なりますが、まず下記の目盛を目安に試し縫いをして、縫い目を見ながら正しく調節してください。

針糸：「3」
下ルーパー糸：「3」(補助糸調子スライドつまみ：「巻き縫い」側)

＊スライド糸案内は「2」本糸側にセットします。
その他の縫い条件の目安は「1本針3本糸の巻き縫い」と同じです。(34ページ参照)

①裏　③針糸
②表　④下ルーパー糸

●布に適した糸や針を選ぶ目安（ふちかがり縫いと合わせかがり縫い）

布の種類		糸	針	縫い目のあらさダイヤル	縫い目の伸縮ダイヤル	かがり爪つまみのセット位置	補助糸調子スライドつまみのセット位置
うすい布	裏地、ジョーゼット、ローン、クレープデシンオーガンジー	化繊糸 #80〜100	HA×1SP #11〜#14	2.0〜3.0mm	0.5〜1.0	S側	標準
普通の布	木綿地、リンネル、サテン	化繊糸 #60〜100	HA×1SP #14	2.5〜3.5mm	1.0		
厚い布	ツイード、キルティング、デニム、ギャバジン	化繊糸 #50〜60	HA×1SP #14	3.0〜5.0mm	1.0		
ニット地	メリヤス、編地	化繊糸 #60〜90 ウーリーナイロン糸（ルーパー糸用）	HA×1SP #11〜#14	2.5〜3.5mm	1.0〜2.2		

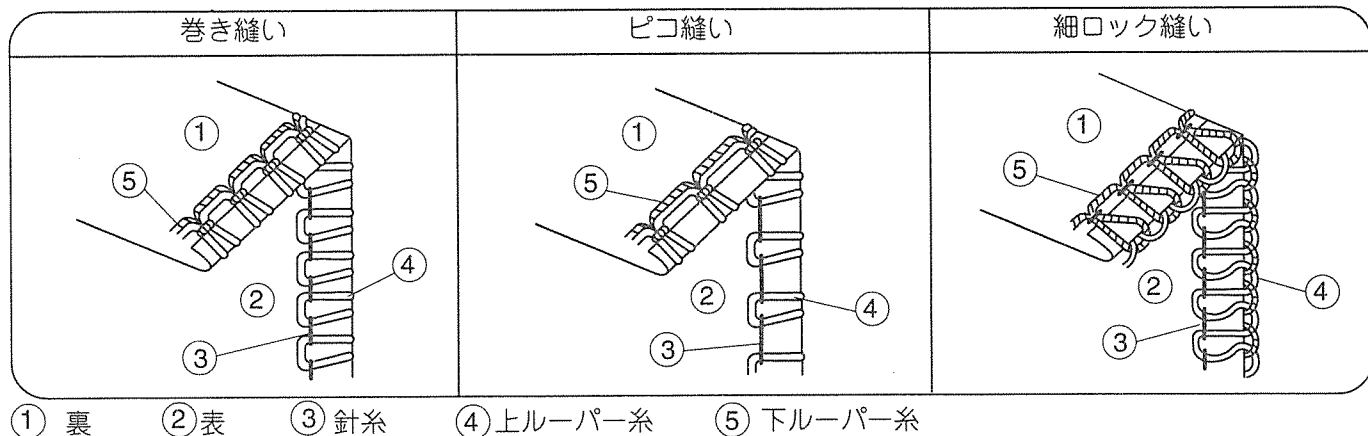
＊糸調子の目安は糸調子の出し方（2本針4本糸）、（1本針3本糸）、（1本針2本糸）をご覧ください。

●巻き縫い(3本糸)、ピコ縫い、細ロック縫い

⚠ 針をはずすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

⚠ かがり爪つまみをセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

	巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
補助糸調子スライドつまみのセット位置	標準　巻き縫い	標準　巻き縫い	標準　巻き縫い
スライド糸案内のセット位置	3/4 2	3/4 2	3/4 2
糸調子の目安			
縫い目のあらさダイヤル	R	3~4	R
縫い目の伸縮ダイヤル	1.0	1.0	1.0
かがり爪つまみのセット位置	(R)	(R)	(R)
針	右針HA×1SP　#11(左側の針ははずしてください)		
針　糸	化繊糸　#80～100		
上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸または化繊糸#80～100	化繊糸　#60～100	ウーリーナイロン糸または化繊糸#80～100
布	うすい布(オーガンジー、クレープデシン、ローン、ジョーゼット)		

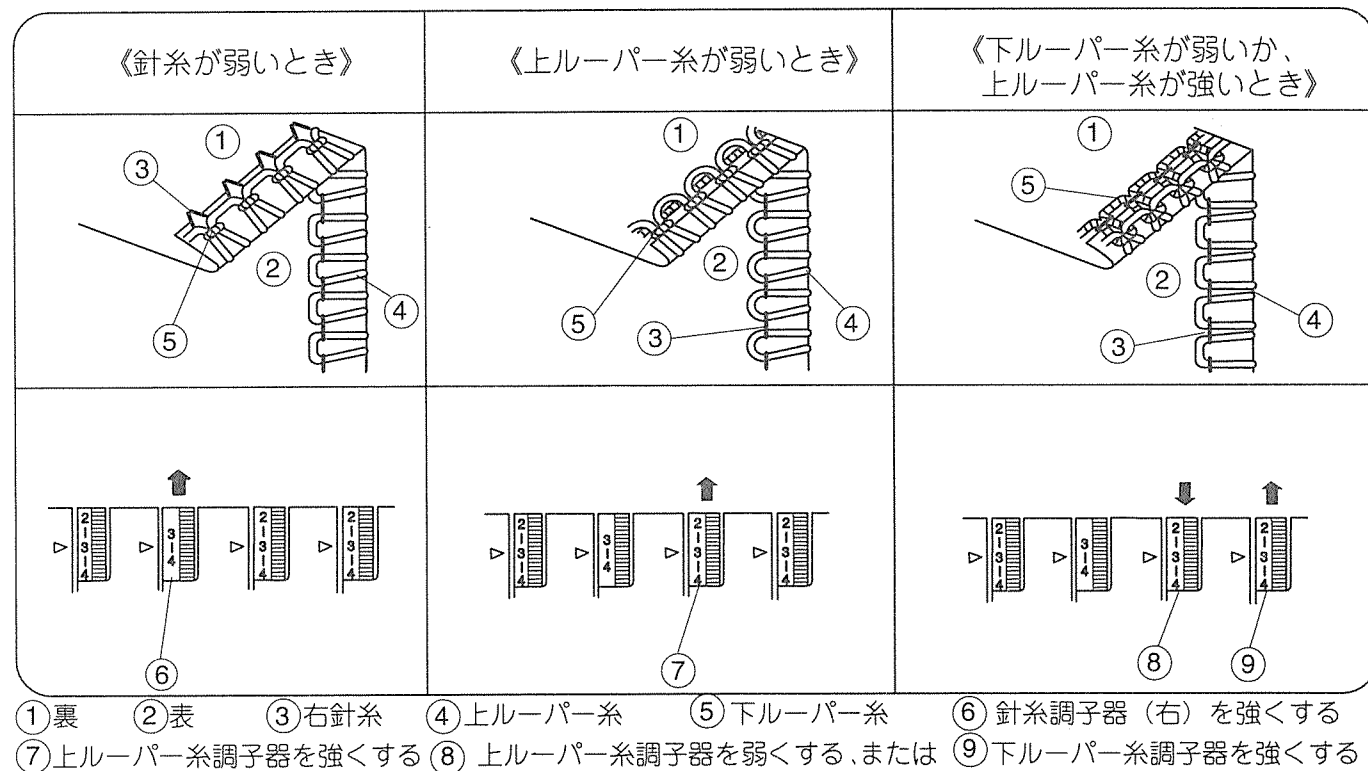
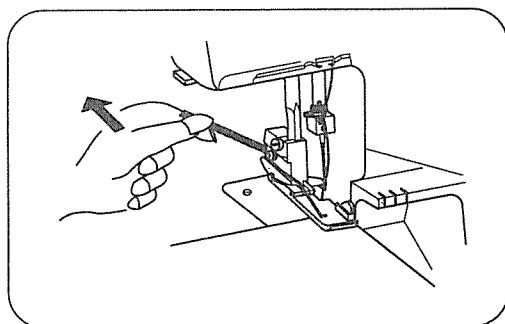
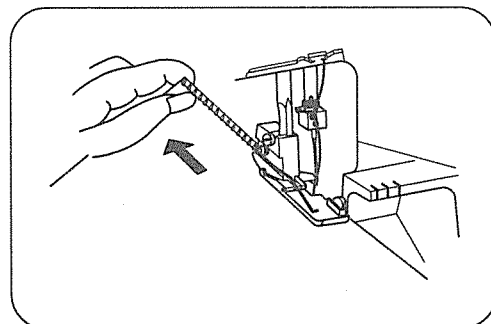
◆ 正しい糸調子

① 裏　② 表　③ 針糸　④ 上ルーパー糸　⑤ 下ルーパー糸

◆ 糸調子の調節のし方

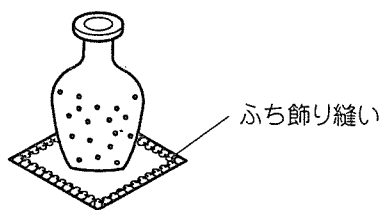
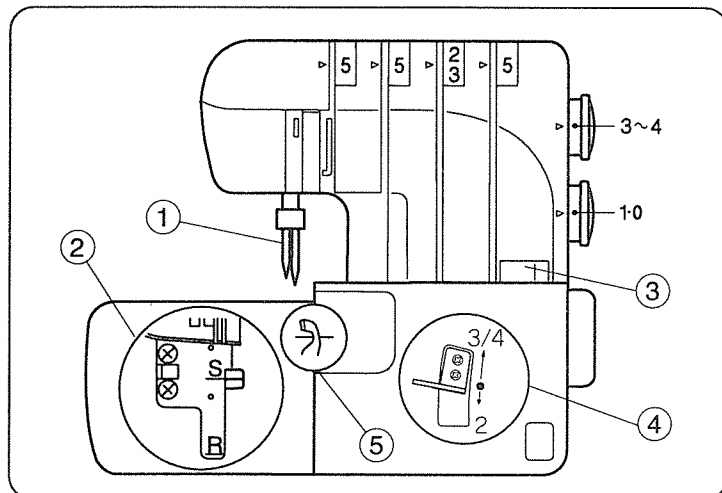
＊糸調子の目安（34ページ）基準で試し縫いをして、縫い目を見ながら正しく調節してください。

◆ 巻き縫いとピコ縫いの糸調子の調節

（＊細ロック縫いは３本糸ふちかがり縫いと同じ要領で調節します。）

① 裏　② 表　③ 右針糸　④ 上ルーパー糸　⑤ 下ルーパー糸　⑥ 針糸調子器（右）を強くする
⑦ 上ルーパー糸調子器を強くする　⑧ 上ルーパー糸調子器を弱くする、または　⑨ 下ルーパー糸調子器を強くする

── 上手に仕上げるには ──

巻き縫い
縫い始めは、カラ縫いした糸を指で軽く向こう側へ引きぎみにして縫うときれいに仕上がります

ピコ縫い
布を軽く向こう側へ引きながら縫うと、きれいに仕上がります

●ふち飾り縫い

《実用例》

＊糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

◆ミシンのセット

布	使用糸	
普通の布 厚い布	針糸(右、左)	化繊糸　#60~80
	上ルーパー糸	飾り糸、極細毛糸
	下ルーパー糸	化繊糸#60~100

①右、左針(HA×1SP#14)

②かがり爪つまみ:S側

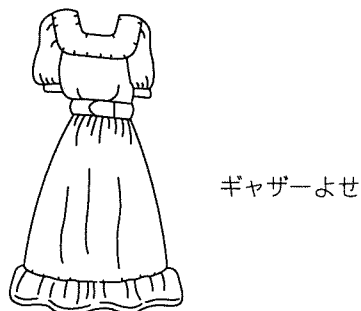
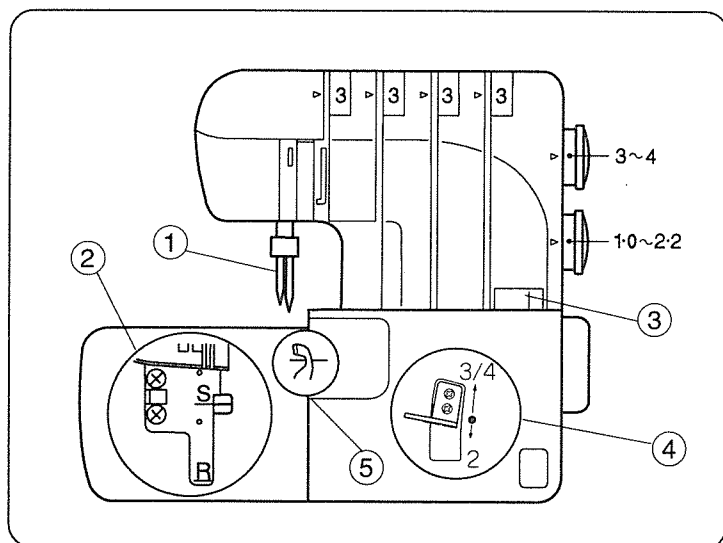
③補助糸調子スライドつまみ:標準側

④スライド糸案内:3/4本糸側

⑤上メス:駆動側

＊太い糸を使用するとき、縫い始めと縫い終わりは、カラ縫いした糸を軽く向こう側へ引きながら縫うときれいに仕上がります。

●ギャザーよせ

《実用例》

◆ミシンのセット

布	使用糸	
普通の布 うすい布	針糸(右、左)	化繊糸　#60~80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸　#60~80

①右、左針(HA×1SP#14または#11)

②かがり爪つまみ:S側

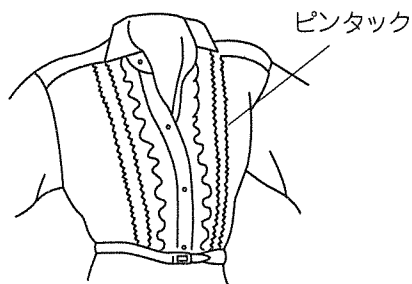
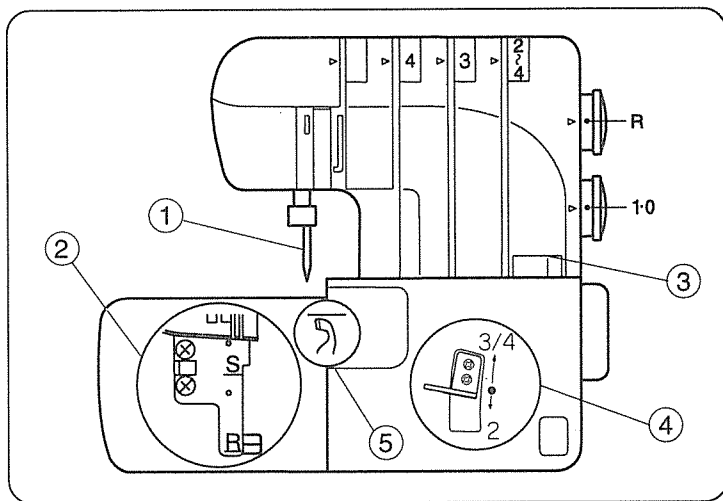
③補助糸調子スライドつまみ:標準側

④スライド糸案内:3/4本糸側

⑤上メス:駆動側

＊二枚の布の、一方だけにギャザーをよせるときは、別売のギャザリングアタッチメントをお使いください。

●ピンタック

《実用例》

＊糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがあります。縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

◆ ミシンのセット

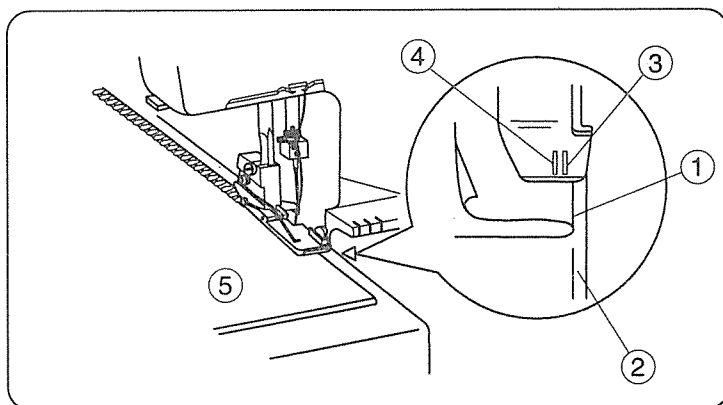
布	使用糸	
うすい布 ニット地	針糸(右)	化繊糸　#60〜80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸　#60〜100

①右針(HA×1SP#14または＃11)

②かがり爪つまみ：R側

③補助糸調子スライドつまみ：標準側

④スライド糸案内：3/4本糸側

⑤上メス：解除側

縫い方

⚠電源スイッチを切ってください。

左側の針をはずしてください。(3本糸で縫います。)
上メスを解除します。
電源スイッチを入れ折り山がガイドラインにそうようにして縫います。

＊縫い目は押さえの右針位置ラインが目安になります。

①折り山

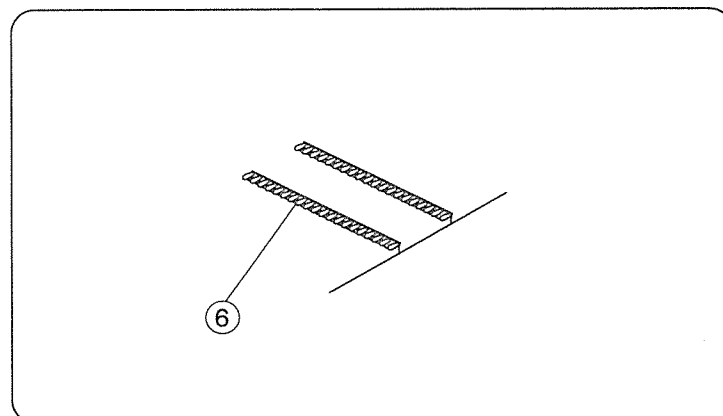
②針板のガイドライン

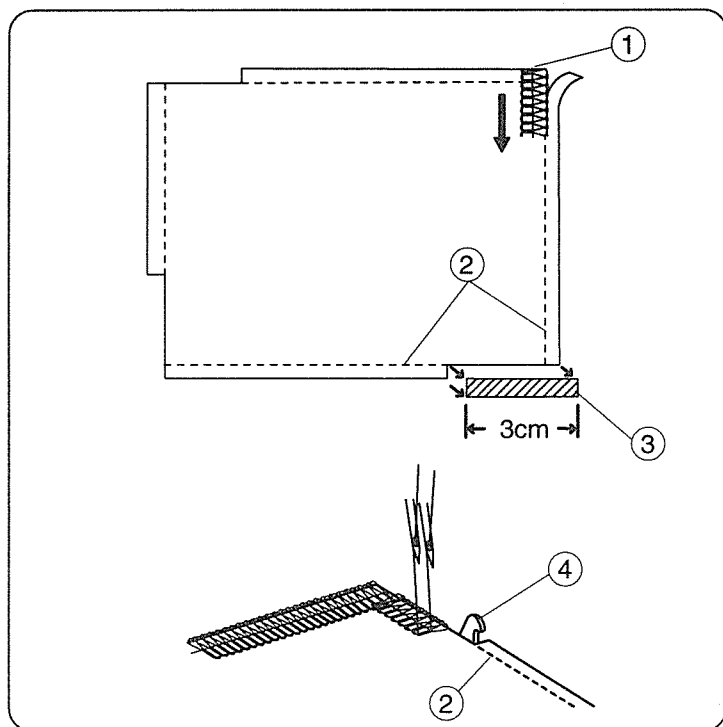
③押さえの右針位置ライン

④押さえの左針位置ライン

⑤布表

布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。

＊作業が終わったら、上メスをもとにもどしておいてください。

⑥ピンタック

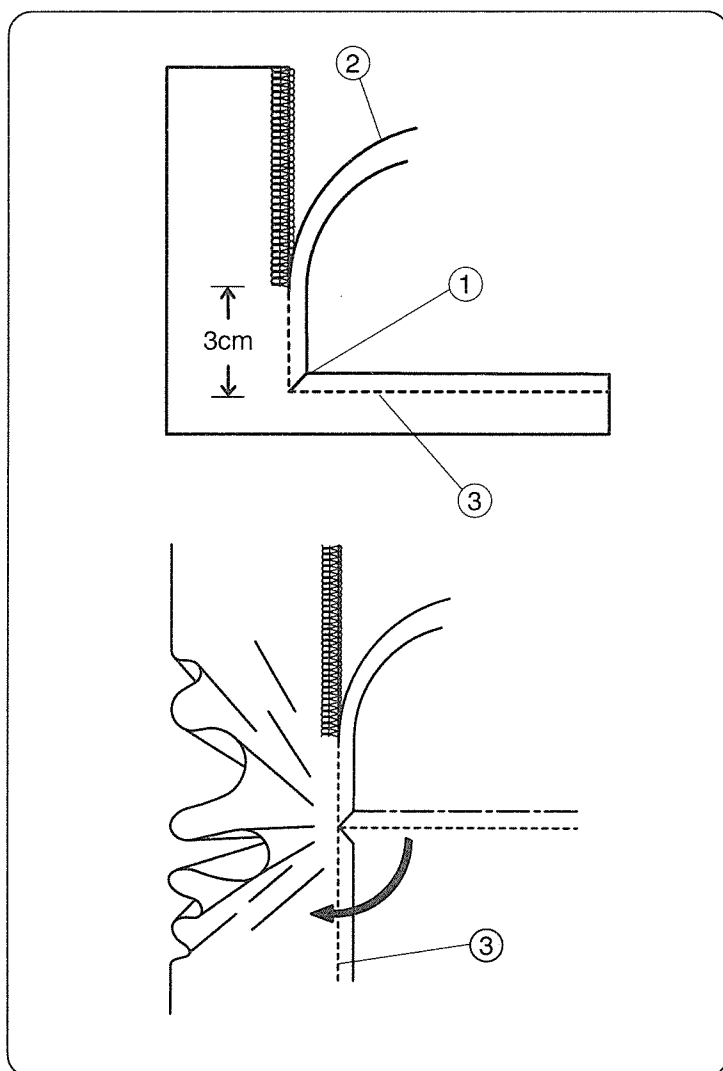
●コーナー部の上手な縫い方

◆外角のとき

1.四すみのうち、縫い始め部をのぞく角を図のように切りしろ線にそって約3cm切り落とします。

2. 縫い始め部から次の角まで縫い終わったとき、ミシンを停止し、針と押さえを上げ、かがり爪から糸を抜きながら布を回して切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。

3. 押さえを下げます。

4.コーナー部で縫い目が重なるように縫いを続けます。

①縫い始め
②切りしろ線
③切り落とし部
④上メス

◆内角のとき

1. あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。

2. コーナー部に向かって縫い進み、切り込みの約3cm手前でミシンを一旦とめます。

3. 次に縫われる切りしろ線を直線上にそろえ押さえの下側へ送り込みます。

4. そのまま縫い進みますと内角の縫いがきれいに仕上がります。

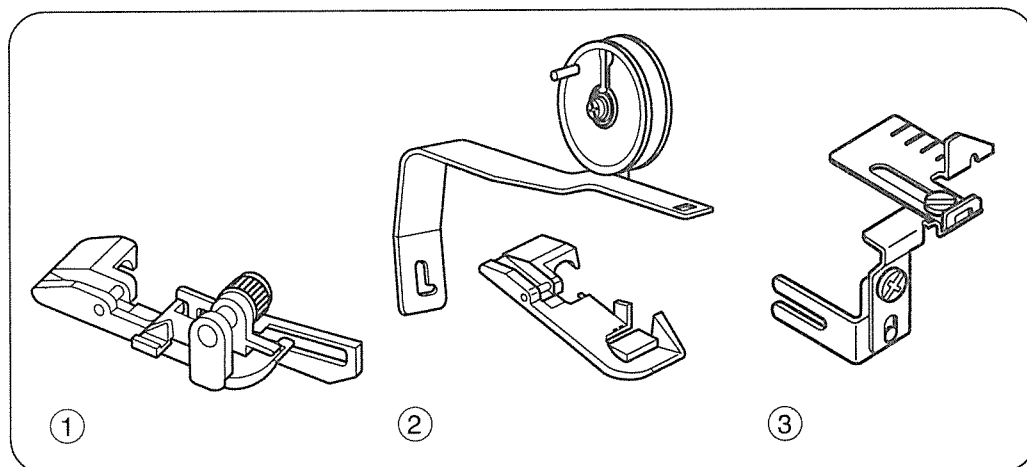
①切り込み
②切りしろ
③切りしろ線

●付属アタッチメントセットの使い方

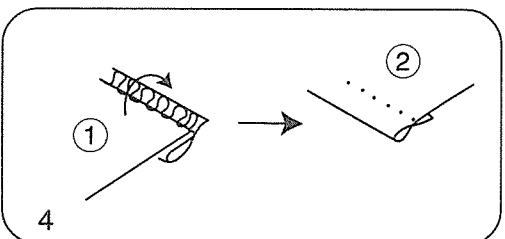
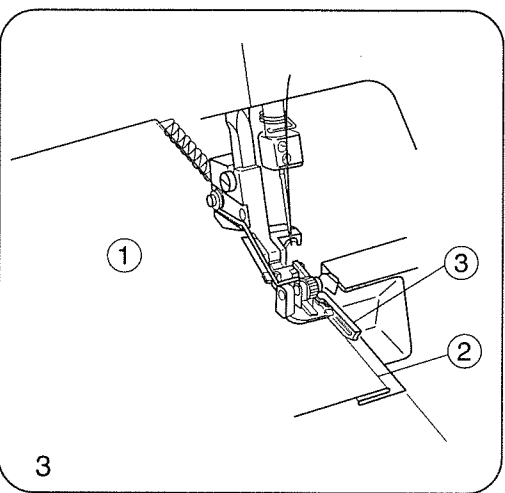
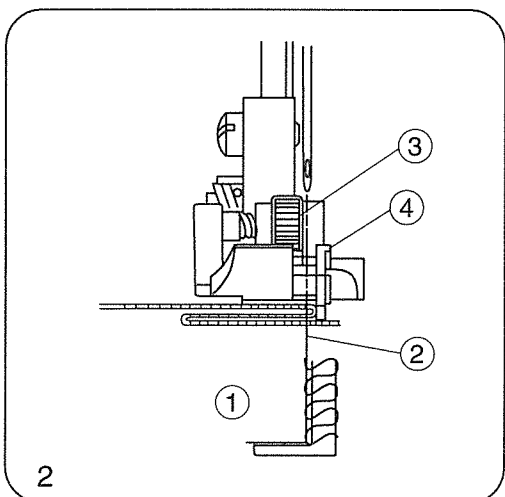
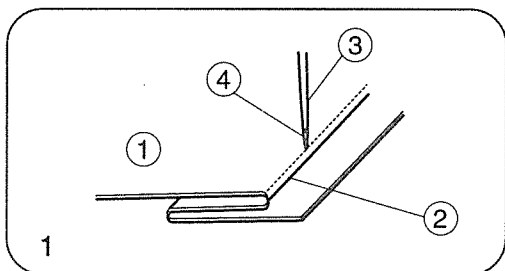
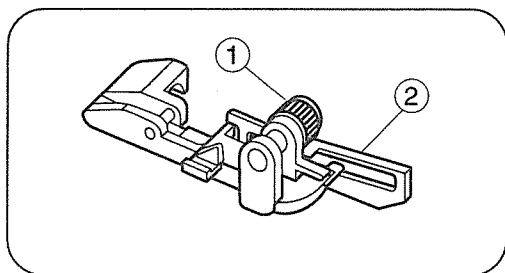
安全にご使用いただくために、以下のことがらを守ってください。

⚠ 注意《けがの原因となります》

*このアタッチメントは JANOME 専用です。
*違う目的には使用しないでください。
*一般の布以外には使用しないでください。
*お客様自身での分解、改造はしないでください。
*お子様がご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意してください。
*アタッチメントを交換するときはミシンの電源スイッチを切ってください。
*ご使用前に、ミシン本体の「使い方の手びき」を充分お読みください。

アタッチメントセット

①すそ引き押さえ
②テープ付けセット
③布ガイド

◆すそ引き押さえの使い方

・部品の名称

①調節ねじ　②布ガイド

・ミシンの設定

	針糸（左）	針糸（右）	上ルーパー糸	下ルーパー糸
糸調子ダイヤルの目安	——	3	3	3

	セット
縫い目のあらさダイヤル	4～5
縫い目の伸縮ダイヤル	1.0（標準）～1.5
布切りメス	使用する
かがり爪つまみ	S側
補助糸調子スライドつまみ	《標準》側
スライド糸案内	《3/4》本糸側

・用途

すそ引き縫いは、ほとんどのアパレル・ニット製品の袖口やすそのまつり処理に使われる、オーバーロック縫いの代表的な利用方法です。

・準備作業及び使い方

⚠ アタッチメントを交換する時は、ミシンの電源スイッチを切ってください。

標準押さえをはずし、すそ引き押さえを取付けます。

ミシンのセット

通常のふちかがり縫いと同じですが、針は右針のみを使用します。

1. 布地を1のように折り、アイロンを軽くかけておきます。

①裏　③右針
②折り山　④わずかに折り山をさす

2. 試し縫いを行ない、針が布の折り山をわずかにさすように調節ねじをまわして布ガイドの位置を決めます。

①裏　②折り山　③調節ねじ　④布ガイド

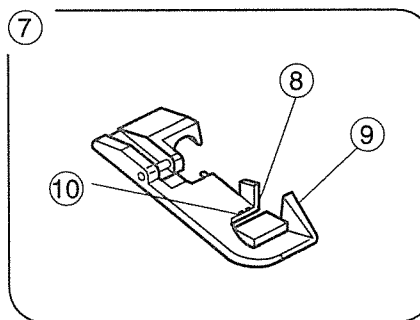
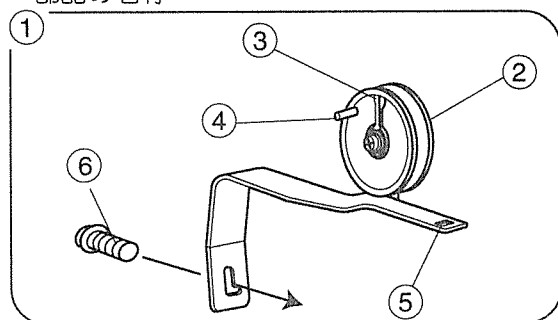
3. 折り山を布ガイドにそわせて針が折り山からはずれないように縫います。

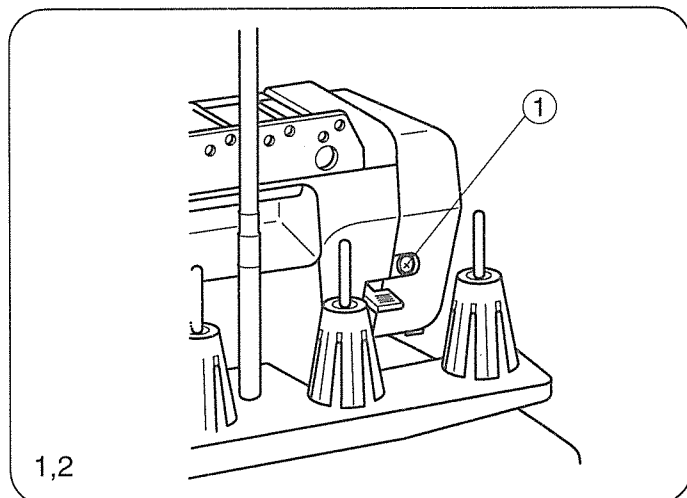
①裏　②折り山　③布ガイド

4. 布を開いて裏側からアイロンを掛けてください。

①裏
②表

◆テープ付けセットの使い方

・部品の名称

①テープリール
②リール
③テープ保持穴
④つまみ
⑤テープガイド穴
⑥取付けねじ（面板しめねじ）
⑦テープ付け押さえ
⑧テープ入れ溝
⑨テープガイド
⑩縫い線ガイド

1,2

・用途

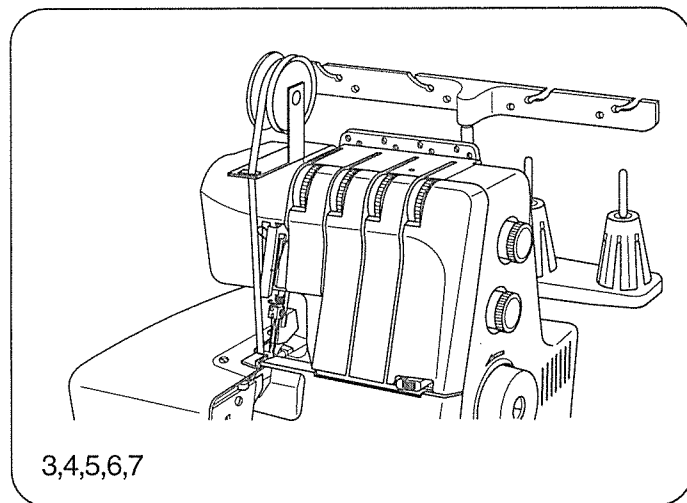
ニット地などの伸縮性のある布地を使った肩線や脇線など、型くずれのしやすい部分を縫うときは伸び止めテープを使用します。伸び止めテープとして市販のテープ（巾4～8mm）をリールに巻取り、テープ付け押さえでテープを布地に縫い付けます。

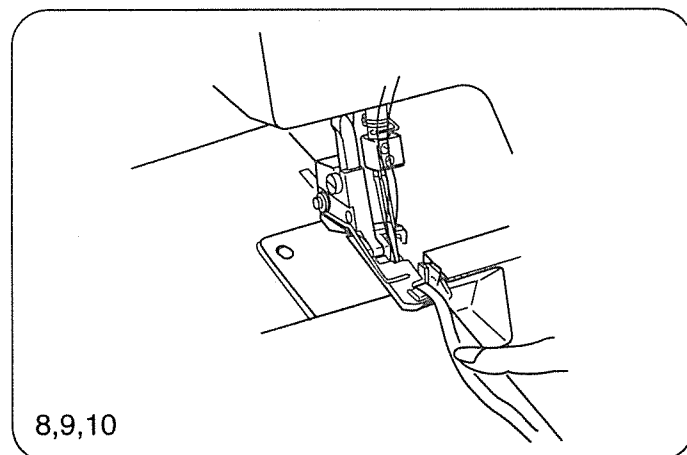
・準備作業及び使い方

アタッチメントを交換する時は、ミシンの電源スイッチを切ってください。

1.面板しめねじをはずします。
2.テープリールを面板に当てがい、面板しめねじで面板と一緒に固定します。

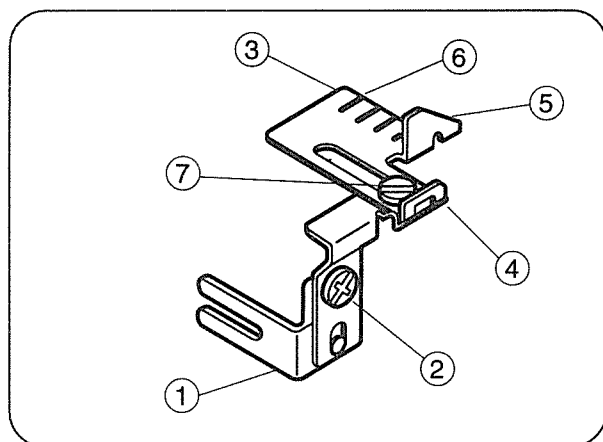
①面板しめねじ

3,4,5,6,7

3.市販のテープをリールの内側からテープ保持穴に差し込み、テープ端を保持しながらつまみを回してテープを巻取ります。
4.ミシンにセットされている押さえをはずし、テープ付け押さえを取付け、押さえを上げておきます。
5.上メスを解除位置にします。
6.テープをテープガイド穴に通してからテープ付け押さえのテープ入れ溝に右から入れて押さえの後方に少し出しておきます。
7.上メスを元にもどします。

8,9,10

8.布を押さえの下に差し込み押さえを下げます。
9.リールのつまみを軽く回してテープのタルミをとります。
10.ゆっくりと縫い始めます。

＊テープの素材が柔らかすぎて安定性が悪いときは図のようにテープを軽く指で案内してください。

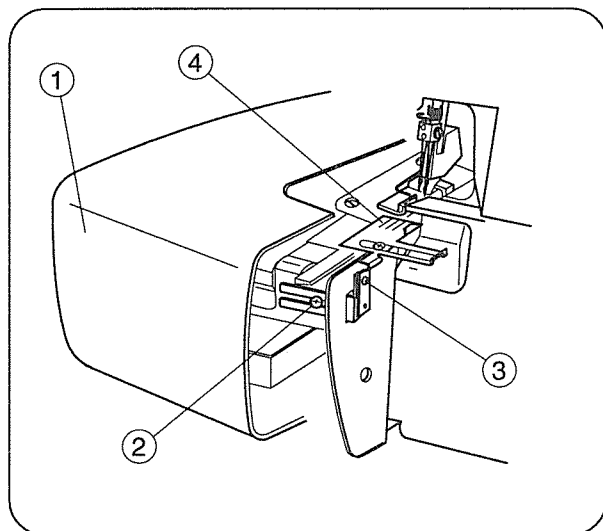
◆布ガイドの使い方

・部品の名称

①取付け板
②しめねじ
③プレート
④つまみ部
⑤ガイド部
⑥刻み線
⑦段ねじ(ゆるめないでください)

・用途

布ガイドはいろいろな縫いに対して幅広く使用出来るアタッチメントの一つです。布ガイド部または刻み線を、針板上の刻み線に合わせて使用すると便利です。

・準備作業及び使い方

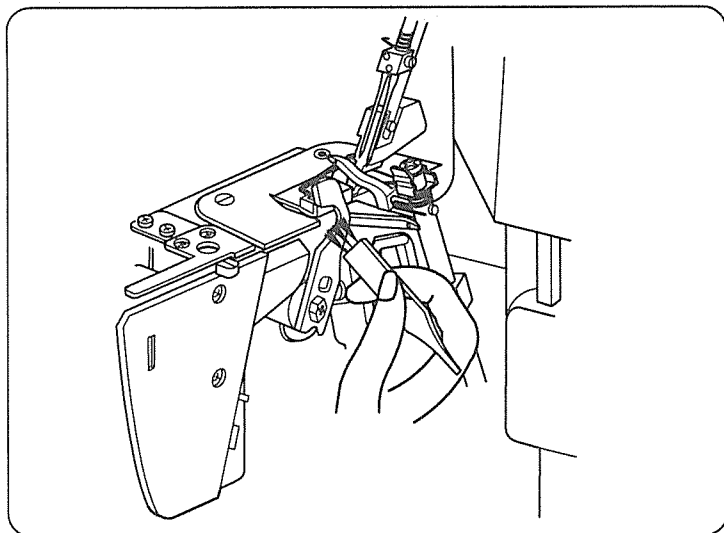
> ⚠ アタッチメントを交換する時は、ミシンの電源スイッチを切ってください。

1. 布板をひらきます。
2. 取付けねじをゆるめ、布ガイドの取付け板を右から差込み、左側いっぱいによせてから取付けねじをしめます。
3. 布ガイドの高さは、しめねじをゆるめプレートを針板の上面に置くように取付け、しめねじをしめます。
4. 布板を閉じます。
5. 布ガイドのガイド部を、用途に応じてスライドさせ、位置を合わせます。

   A) メスを使用しない場合
   - ・かがり幅を一定の幅にガイドして縫う作業に有効です。
   - ・用途：飾り糸でのフラットロック縫い・ピンタック

   B) メスを使用する場合
   - ・布の切り落とし幅がある場合など、切り幅を一定に保ちながら、縫製物を案内することができます。
   - ・布ガイドには5mm間隔で刻み線が入っていますので目安にしてください。

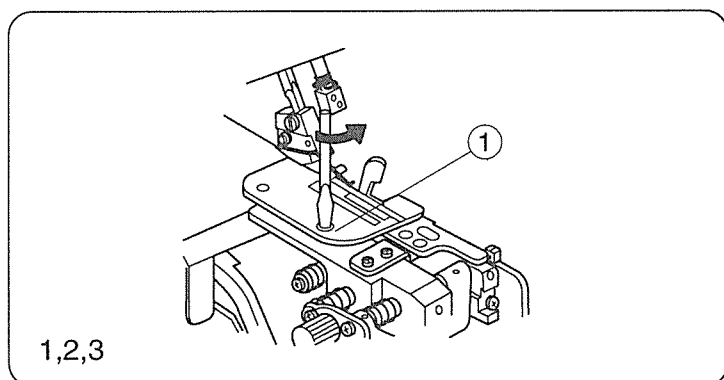
(注) ルーパーカバーの開閉は、布ガイドのつまみ部を左側いっぱいに移動することで可能です。

①布板
②取付けねじ
③しめねじ
④プレート

●切りくずの掃除

⚠電源スイッチを切ってください。

ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

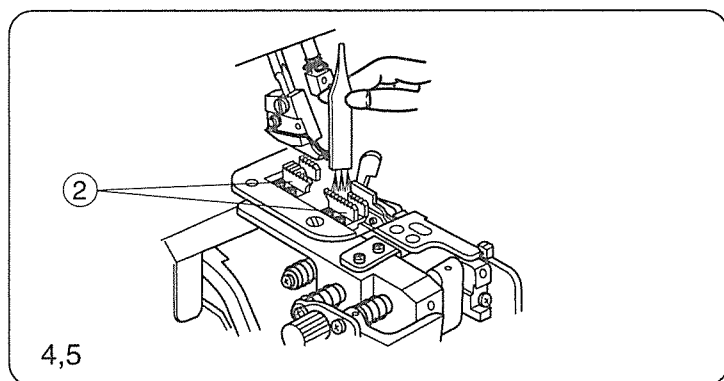
＊ブラシで掃除しにくい切りくずや、ほこりは、電気掃除機で吸い取ってください。

●送り歯の掃除

⚠電源スイッチを切ってください。

1.ルーパーカバーと布板をひらきます。

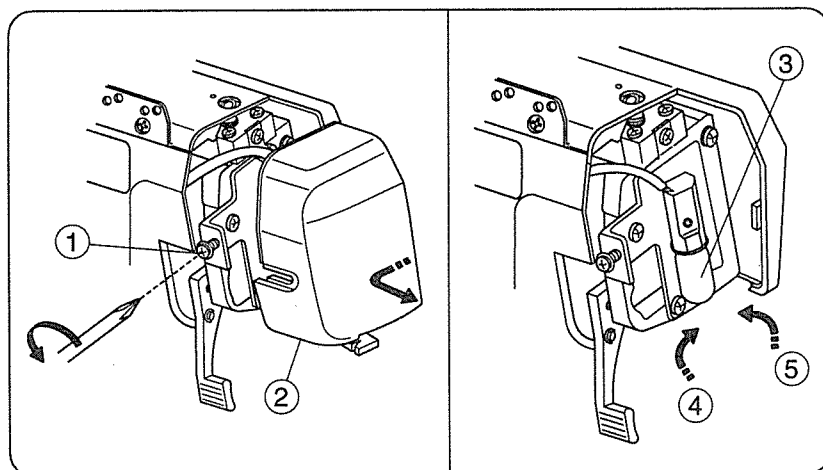
2.針と押さえをはずします。

3. 針板しめねじをはずし、針板をはずします。

①針板しめねじ

4.送り歯のごみを、ブラシで落とします。

5.針板、押さえ、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

②送り歯

●電球のとりかえ方

⚠電源スイッチを切ってください。

1.しめねじをゆるめ、面板をはずします。

2. 電球をはずすとき……左に回します。
   電球をつけるとき……右に回します。

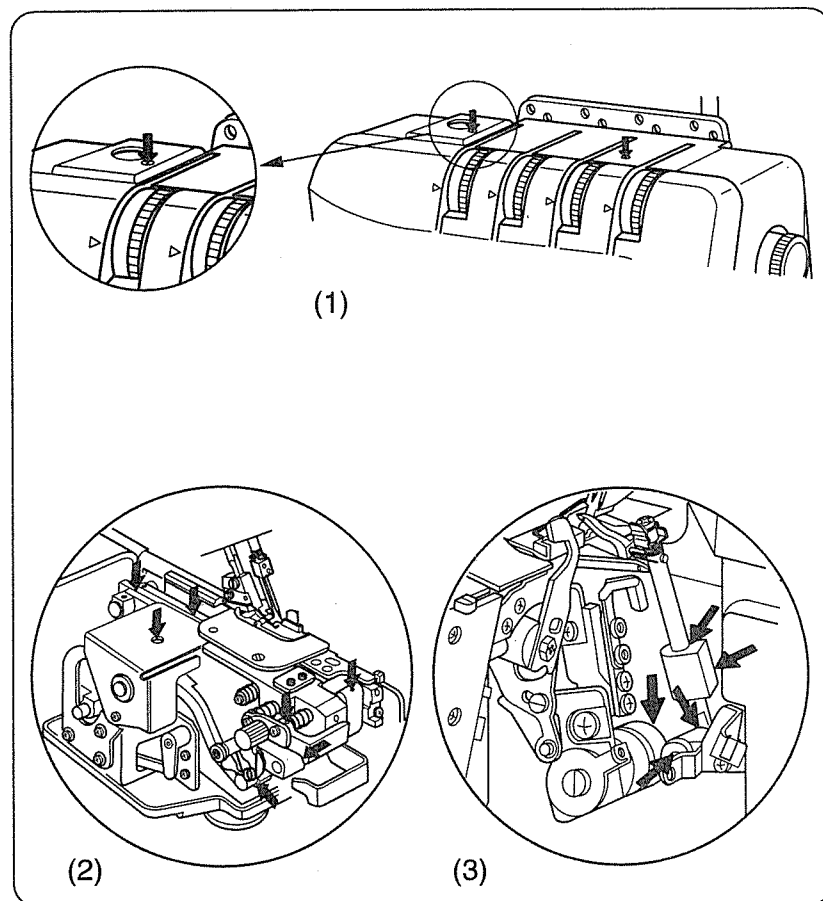
3. 電球をとりかえ終わったら、面板をとりつけます。

①しめねじ　④電球をはずす
②面板　⑤電球をつける
③電球

⚠ 電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。

⚠ 電球を外した状態でミシンを使用しないでください。

＊このミシンの電球は照明用100V－12Wを使用してください。

●注油のし方

⚠ 電源スイッチを切ってください。

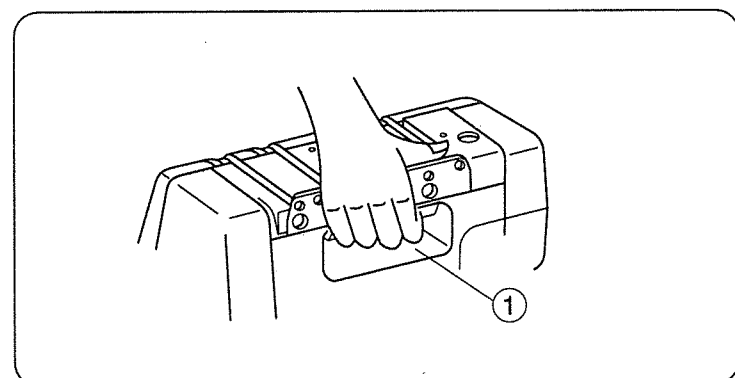
矢印の箇所に良質のミシン油を1～2滴注油します。

注油後、上メスを解除し、布板とルーパーカバーをしめ、押さえをあげます。電源スイッチを入れ、1～2分ほどミシンを回転させて、よく油をしみこませます。手や布がふれる所についた油はふき取ってください。

＊快適にご使用いただくために、定期的な注油をしてください。

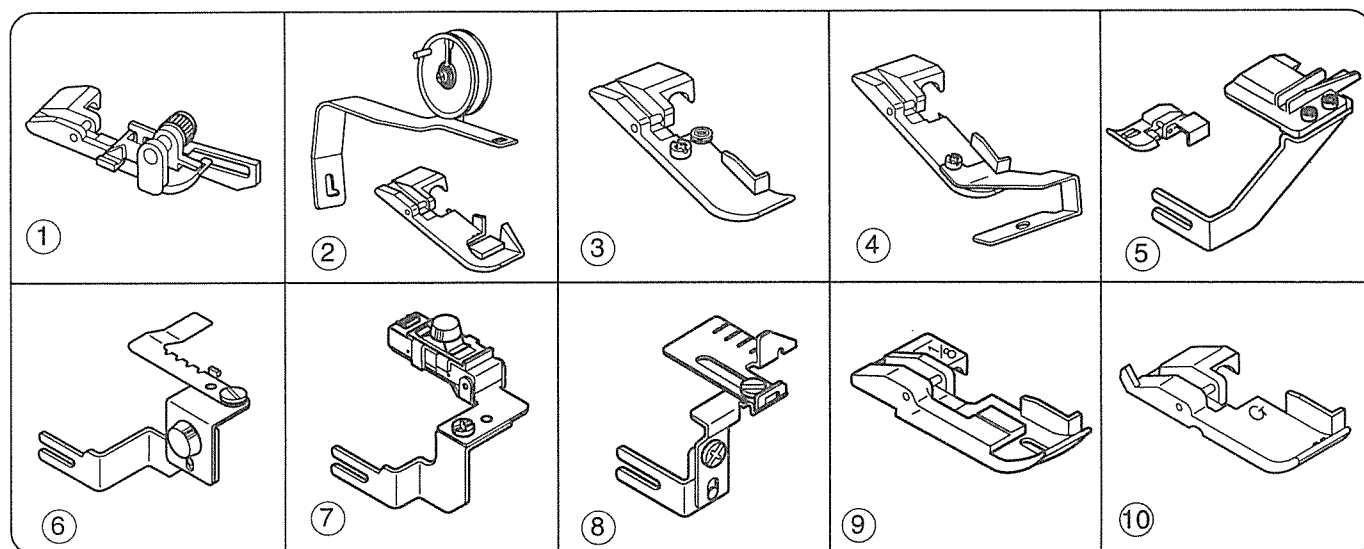
⚠ ミシンを回転させるときは、必ずルーパーカバーと布板を閉めてから行ってください。

(1)天板の2ヶ所に注油します
(2)布板を開いて注油します
(3)ルーパーカバーを開いて注油します

●ミシンの持ち運び方

ミシン本体裏側の上部にくぼみがありますので、図のように指をかけますと、持ち運びができます。

①指掛け用くぼみ

●別売付属品

お客様方からのご要望を反映して、特定の用途を満たし、便利で美しい仕上がりを手助けする、各種アタッチメント類を用意しておりますので、ご利用ください。

①	裾引き押さえ NO.200236106	ズボンやスカートのすそのまつり縫いが美しくできます。
②	テープ付けセット NO.200237107	市販テープをリールに巻き取って、ニット地など伸縮性のある布地の肩線や脇縫いの伸び止めに使用します。
③	コード付け押さえ(1) NO.200238108	飾りコード付け、フィッシュライン(テグス)付けによる波立てフリル等に使用します。
④	コード付け押さえ(2) NO.200239109	広巾巻き縫い(芯入り)でテーブルクロスなどのふちどりに、又ニット地に毛糸等を一緒に縫うと伸び止めの効果がでます。
⑤	ビーズ付けセット NO.200240103	市販ビーズによる衣服のビーズ飾り縫い等に使用します。 使用ビーズ径は1～4mmです。
⑥	ギャザリングアタッチメント NO.200241104	袖付け、袖口、えりぐり付け等に使用します。
⑦	ゴムテープ付けアタッチメント NO.200242105	衣服のすそなどのゴムテープ付けが簡単にできます。 サイズは、3.5～8mmに使用できます。
⑧	布ガイド NO.200243106	フラットロック、ピンタック縫いなどへ多様に使用できます。 布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。
⑨	パイピング押さえ NO.200244107(3mm用) NO.200245108(5mm用)	パイピング(バイヤステープ)材による補強や飾り縫い。 サイズは3mm(1/8″)用と、5mm(3/16″)用を別々に用意しています。
⑩	ギャザリング押さえ NO.200250106	押さえの溝でギャザーの深さがしっかり取れます。

＊ MY LOCK 260D にはアタッチメントセットとして上記の①,②,⑧が標準付属となっています。

各①～⑩
1,575円

●調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原　因	直し方
布地を送らない。	① 押さえがあがっている。 ② 送り歯が糸くずでつまっている。	押さえをおろす。 43ページ参照
針が折れる。	① 針のつけ方がまちがっている。 ② 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③ 布地を無理に引っぱった。	8ページ参照 8ページ参照 縫う時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	① 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ② 糸調子が強すぎる。 ③ 針のつけ方がまちがっている。 ④ 針がまがっていたり、針先がつぶれている。	14～24､26ページ参照 29～32,34～37ページ参照 8ページ参照 8ページ参照
縫い目がとぶ。	① 針のつけ方がまちがっている。 ② 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③ 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	8ページ参照 8ページ参照 14～24､26ページ参照
縫い目の調子が悪い。	① 糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ② 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③ 針と糸が布に対して合っていない。 ④ 糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	29～32,34～37ページ参照 14～24､26ページ参照 33､34､36､37ページ参照 16､18､20､22ページ参照
縫い目がしわになる。	① 糸調子が強すぎる。 ② 糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。 ③ 縫い目のあらさまたは縫い目の伸縮ダイヤルの設定がまちがっている。 ④ かがり爪位置がまちがっている。	29～32,34～37ページ参照 14～24､26ページ参照 10､33､34､36､37ページ参照 12､33､34､36､37ページ参照
ミシンがまわらない。	① コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 ② 電源スイッチがOFFになっている。	5ページ参照 ONにする。
縫い目と布のバランスがわるい。	① 切り巾の調節が合っていない。	11ページ参照

仕様			
使用電圧	100V 50/60Hz	縫い目のあらさ	1～5 mm
消費電力	100W/ランプ 12W	縫い目の伸縮	0.5～2.2
外形寸法	幅32.1cmX奥行28.4cmX高さ28cm	かがり幅	標準：3.5mm、5.7mm（2本糸、3本糸）5.7mm（4本糸） 最大：7.5mm（2本糸、3本糸、4本糸）
重量	7Kg（本体）		
使用針	家庭用 HAX1 SP針 11番・14番		
縫速度	毎分1300回転		

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

お客様相談コーナー

★ジャノメミシンでは全国160の直営支店で万全のアフターサービスをしております。この手びきに書かれている方法で直らないときは、最寄りの支店へご連絡ください。
★お問い合わせの際は、この手びきをお読みになりながらお電話くださると係員も故障の原因や箇所がわかって便利です。
★アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、本社お客様相談室または、下記の代表支店へ何なりとお申しつけください。

本社・お客様相談室 ☎ 03（3277）2200
〒 104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

池袋支店 ☎ 03（3987）5266
〒 170-0013 東京都豊島区東池袋1-28-7

西東京支店 ☎ 03（3337）0482
〒 166-0001 東京都杉並区阿佐ヶ谷北2-36-1

八王子支店 ☎ 0426（42）0777
〒 192-0046 東京都八王子市明神町4-11-12

横浜支店 ☎ 045（842）3816
〒 233-0002 神奈川県横浜市港南区上大岡西1-13-18

千葉支店 ☎ 043（222）5121
〒 260-0012 千葉県千葉市中央区本町1-5-14

船橋支店 ☎ 0474（32）2785
〒 273-0011 千葉県船橋市湊町2-1-8

大宮支店 ☎ 048（641）2975
〒 330-0841 埼玉県さいたま市東町1-66-1 第3開新社ビル1F

川越支店 ☎ 0492（22）2454
〒 350-0043 埼玉県川越市新富町1-12-12

高崎支店 ☎ 027（324）0055
〒 370-0831 群馬県高崎市新町118

富山支店 ☎ 076（431）8827
〒 930-0029 富山県富山市本町3-25

三条支店 ☎ 0256（32）1737
〒 955-0071 新潟県三条市本町4-1-8

長野支店 ☎ 026（228）1491
〒 380-0928 長野県長野市若里3-1-43

仙台支店 ☎ 022（249）4161
〒 982-0011 宮城県仙台市太白区長町5-3-25

郡山支店 ☎ 024（932）3362
〒 963-8852 福島県郡山市台新1-4-15

盛岡支店 ☎ 019（624）6741
〒 020-0021 岩手県盛岡市中央通2-9-20

名古屋支店 ☎ 052（733）5116
〒 466-0027 愛知県名古屋市昭和区阿由知通1-12-3

津支店 ☎ 059（228）4900
〒 514-0041 三重県津市八町1-1-10

浜松支店 ☎ 053（476）5191
〒 433-8122 静岡県浜松市上島5-5-30

大阪支店 ☎ 06（6583）8031
〒 552-0002 大阪府大阪市港区市岡元町3-1-4

奈良郡山支店 ☎ 0743（54）3060
〒 639-1012 奈良県大和郡山市城見町2-4

和歌山支店 ☎ 0734（31）6216
〒 640-8033 和歌山県和歌山市本町2-12

尼崎支店 ☎ 06（6432）3307
〒 661-0041 兵庫県尼崎市武庫の里1-12-3

加古川支店 ☎ 0794（23）9980
〒 675-0066 兵庫県加古川市加古川町寺家町75-8

西陣支店 ☎ 075（461）7940
〒 602-8276 京都府京都市上京区千本通上長者町上ル百万遍町89

岡山支店 ☎ 086（222）8896
〒 700-0814 岡山県岡山市天神町1-26

広島支店 ☎ 082（228）5181
〒 730-0016 広島県広島市中区幟町15-9

観音寺支店 ☎ 0875（25）2887
〒 768-0060 香川県観音寺市駅通り甲1017-5

熊本支店 ☎ 096（354）6523
〒 860-0845 熊本県熊本市上通り町8-15

大分支店 ☎ 097（534）1616
〒 870-0047 大分県大分市中島西1-2-24

長崎支店 ☎ 095（849）6025
〒 852-8107 長崎県長崎市浜口町3-8

（株）ジャノメ北海道販売 札幌本店 ☎ 011（861）5634
〒 003-0027 札幌市白石区本通3丁目北1-21

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。